



# Disability Football Toolkit

---

SEPTEMBER 2025

障がい者フットボールツールキット



# 目次

|                      |          |
|----------------------|----------|
| <b>イントロダクション</b>     | <b>5</b> |
| このツールキットがなぜ作られたか?    | 6        |
| このツールキットはどのように作られたか? | 8        |
| このツールキットの目的          | 8        |
| このツールキットの対象          | 9        |
| どのように有効活用しうるか        | 10       |
| このツールキットが扱っていないこと    | 11       |

## 1.

|                |           |
|----------------|-----------|
| <b>障害を理解する</b> | <b>12</b> |
| 用語             | 13        |
| 個人中心のアプローチ     | 17        |
| 障害の社会モデル       | 17        |
| アクセスしやすさを享受する人 | 20        |

## 2.

|                          |           |
|--------------------------|-----------|
| <b>障がい者フットボール</b>        | <b>21</b> |
| 障がい者のスポーツ参加              | 22        |
| 障がい者フットボールとは?            | 27        |
| メインストリーム(一般)フットボール       | 29        |
| 修正フットボール                 | 32        |
| パンディスアビリティ(障害種別横断)フットボール | 34        |
| 障害種別フットボール               | 37        |



## 3.

|   |           |
|---|-----------|
| <b>はじめの一步</b>                           | <b>49</b> |
| 第1段階: 準備とリサーチ(第1-3ヶ月)                   | 51        |
| 第2段階: プログラムの開発(第4-6ヶ月)                  | 59        |
| 第3段階: アクションする - パイロットプログラムとテスト(第7-12ヶ月) | 69        |
| 第4段階: プログラムの拡大(第13-18ヶ月)                | 71        |
| 第5段階: 持続可能性と成長(第19-24ヶ月)                | 76        |
| <b>ツール</b>                              | <b>86</b> |
| 用語集                                     | 88        |
| FIFAアクセシビリティ用語ガイド                       | 91        |
| 国際的な障がい者フットボール主要連盟および障がい者スポーツ組織         | 94        |
| 障がい者がスポーツに参加する上での障壁                     | 98        |
| 障がい者フットボールワークプランテンプレート                  | 98        |
| 障がい者フットボールポリシーテンプレート                    | 98        |
| インクルーシブフットボールコーチのための実践アドバイス             | 99        |



©JFFID

本誌は、FIFAが障害のある人の機会を支援し拡大するために作成した『Disability Football Toolkit(2025年9月版)』を公益財団法人日本サッカー協会(JFA)が翻訳したものです。本誌に使用する画像は、一般社団法人日本障がい者サッカー連盟(JIFF)協力のもと、JIFF加盟団体から提供いただきました。



©JPFA photo by C.MATSUMOTO

# イントロダクション





## このツールキットがなぜ作られたか？

[世界保健機関\(WHO\)](#)によると、世界の人口の16%に当たる13億人に何らかの障害があり、この数は増加傾向にあります。[国連障害者権利条約\(UN Convention on the Rights of Persons with Disabilities\)](#)第30条第5項に基づき、すべての障がい者は、メインストリーム(一般)のスポーツ活動か障害に特化したスポーツ活動を問わず、他者と同等の条件でレクリエーション、レジャー、スポーツに参加する権利を有しています。

FIFA(国際サッカー連盟)にとって、世界のフットボールの統括機関としての主要なミッションの一つは、障害のある人や移動に制限のある人を含む、すべての人がフットボールに参加できる環境を促進することです。さらに、2023年から2027年までの「グローバル・ゲーム戦略的目標」の目標6(社会的責任に焦点を当てた部分)において、FIFA会長は、世界中の障がい者フットボールの普及と発展を促進することを誓約しています。



©Haruo.Wanibe/JBFA

[FIFAの人権ポリシー](#)および[FIFA定款](#)の第4条は、個人または集団に対するいかなる形態の差別も禁止しており、これには障害を理由とする差別も含まれます。

フットボールが日々グローバル社会に与える影響力は明らかです。フットボールは人々を結びつけ、世代を超えて感動を与え、チームスピリットを育むものです。FIFAは、この力を活用し、社会にポジティブな影響を与えることを使命としています。世界中で、障害のある人がフットボールを楽しむための多様な競技形態やフォーマットが存在しています。障がい者フットボールがより定着している国では、これらの機会は主に、障害のある人をフットボールに参画させることを目的とした市民団体によって提供されています。

FIFAは、障害のある人の機会を支援し拡大するため、この「障がい者フットボールツールキット」を作成しました。このツールキットは、障がい者フットボールの機会と構造のグローバルな発展と持続可能性を支援し、障害のある人が、フットボールのあらゆる面でインクルーシブかつ積極的に参加することの促進を目的としています。

FIFAは、多くの加盟協会および関連するステークホルダーが既に優れたポリシー、手順、取り組み、および研修を整備していることを認識しています。そのため、これらのすばらしい取り組みを基盤として進めていきます。



## このツールキットはどのように作られたか？

FIFAは、このツールキットの内容を、FIFAパラフットボールワーキンググループの貴重なサポートを受けて開発しました。特に、専門知識、ケーススタディ、アドバイス、およびインプットを寄せてくださった各加盟協会および国際障害者フットボール連盟の皆様に、心より感謝申し上げます。

## このツールキットの目的

このツールキットの主な目的は以下の通りです。

- 障がい者フットボールの基本原則および加盟協会およびその他の関連するステークホルダーが実施可能な多様な競技種目について理解を深めていただくこと。
- 障がい者のフットボールへの参加を世界的に拡大させることをサポートすること。- プログラムや競技会が大陸連盟、各国協会、障がい者フットボールの国際連盟、またはその他の主要なステークホルダーによって主導される場合を含みます。
- 障がい者フットボールの取り組みにおける知識、最良の実践好事例の共有、および共同アクションを加速させること。



## このツールキットの対象

グローバルなフットボールの進化と統合の一環として、FIFAは障がい者フットボールの発展に取り組むすべてのステークホルダーを支援するために、このツールキットを確立しました。このリソースは、以下のステークホルダーが利用することができます。

1. 大陸連盟、各国協会および地域連盟で、地域内における障がい者フットボールの推進、発展、および普及・拡大に取り組むことを目的として活動する団体。
2. 障がい者フットボールのリーグ、クラブ、指導者、またはボランティアで、障がい者フットボールへの参加を始めてみたい、または参加者を増やしたいと考えているが、どこから始めればよいか分からない人。
3. 障害のある人で、フットボールをプレーしたいと考えているが、それが可能であるかを知らない、または指導にガイダンスを必要としている人。保護者、家族、支援者にとっても、この情報はプレーヤーを支援する上で役立ちます。
4. 他の多種目障がい者スポーツ団体で、会員向けに障がい者フットボールのプログラムを提供する際のガイダンスを希望される団体。

私達は、すべてのフットボールのステークホルダーにこのツールを活用し、特に障害のある人を含むすべての人がフットボールに参加することを、さらに促進するためのきっかけとして活用することを呼びかけます。



## どのように有効活用するか？



本書の3章にわたって、具体的な行動を起こすための実践的なツールとテンプレートが提供されています。これらの文書はあくまでガイドラインとして作成されており、各地域の状況に応じて適宜修正する必要があります。すべてのツールは、文書の末尾にも掲載されています。

このツールキットは、障がい者フットボールに関する活動を開始または発展させたいと考えている皆さんを支援することを目的としています。

目下、3つの段階に焦点を当てています。

1. 障害の理解
2. 障がい者フットボール
3. 始めてみる:地域で障がい者フットボールを始め、または拡大する方法

あなたの組織がこのテーマに取り組むのが初めての場合、まず「障害」「社会モデル」および「障がい者フットボール」の意味を理解し、障がい者フットボールの多様な形態や、これらの形態が世界中でどの程度普及しているかについて、深く理解することをおすすめします。

このツールキットはアドバイスとしての文書であり、各地の障がい者団体と協議の上で設計されたものであれば、この他の代替的かつ創造的な解決策を制限する意図はありません。

この資料のコピーを、アクセシビリティ目的で他形式でご希望の場合は、[humanrights@fifa.org](mailto:humanrights@fifa.org) までご連絡ください。



## このツールキットが扱っていないこと

このリソースは、以下のいずれの目的にも使用されることを意図していません。

- 障がい者のフットボールに関する既存のポリシー、手順、およびトレーニングをこれに置き換えること。
- 障がい者を対象としたフットボールプログラムの実施に関する完全なガイドラインを提供すること。このツールキットは、単に特定の原則と最低限の要件に焦点を当てた情報を提供するだけのものです。
- 現在のグローバルな実践事例のうち、科学的根拠に基づくものすべてを詳細に含めること。障がい者フットボールに関する革新的なアプローチやプログラムは、現在多くの国で適応され実施されています。このツールキットは、世界中の各国協会や他のスポーツ組織の現在の経験に基づいて、必要な核となる要素に焦点を当てています。FIFAは、この文書を継続的に更新し、メンバーからのフィードバック、実践的な経験、およびすべてのスポーツにおける好事例の進化に基づいて、24ヶ月毎に見直す必要がある「生きた文書」と位置付けています。
- フットボール競技大会に参加する観客のためのインフラ、スタジアム、トレーニング施設、またはインクルーシブなサービスに関する詳細なアクセシビリティガイドラインを提供すること。このテーマに関するその他のFIFAリソースをご参照ください。

このツールキットに関するお問い合わせやご意見は、FIFAまでご連絡ください。連絡先は [humanrights@fifa.org](mailto:humanrights@fifa.org) です。



©JAJA

1.



# 障害を理解する





## 用語



[ツール:アクセシビリティ用語ガイド](#)

[ツール:用語集の中の他の定義や用語](#)

「障害」は、人々の視覚、聴覚、言語、運動、思考、感情などの能力に影響を与える多様な健康状態、能力の差異、および特定のアクセス要件を包括する総称として使用されます。

障害には、他者から目に見えるもの（例えば車椅子を使用する人）や、他者からは見えないもの（例えば聴覚障害のある人）など、多様な形態があります。さらに、複雑なまたは複合的なアクセス要件を有する場合があります（例えば、車椅子を使用する人で、同時に視覚障害や聴覚障害を抱える人など）を理解し、考慮することが重要です。

障害は、先天性、加齢に伴うもの、または病気やけがの結果として生じる場合があります。一時的なもの、再発する可能性のあるもの、または永続的なものがあります。





障害には多くの種類があり、この資料で全てを網羅することはできません。ただし、一部の障害はいくつかのカテゴリーに分類することができ、以下にその概要を説明します。

### 聴覚

聴覚障害は、難聴と言われるレベルから、全く聞こえないレベルまで聴力も様々です。聴覚障害のある人は、手話、口話、またはその両方を用いてコミュニケーションを取ることができ、音を増幅するために補聴器や人工内耳を使用することがあります。

### 認知

認知障害は、精神障害、知的障害、または学習障害とも呼ばれます。これは、人がコミュニケーション、学習、または情報の保持に困難があることを意味します。このグループには、脳損傷、アルツハイマー病、不安障害、双極性障害、統合失調症、または外傷後ストレス障害 (PTSD) などの精神疾患がある人も含まれます。

### 移動機能

この種類の障害は、個人の移動能力や動作範囲に影響を及ぼします。例えば、四肢の切断、脊髄損傷、脳性麻痺、または低身長などが該当します。障害のある人は、歩行可能(車椅子や義肢、杖、松葉杖などの移動補助具を使用しない)である場合もあれば、常に移動補助具を使用する場合、時々使用する場合、またはスポーツに参加する時のみ使用する場合があります。



### 感覚

感覚障害のある人は、日常の環境における視覚、聴覚、嗅覚の刺激に対して脳が過剰反応し、ストレスや不快感を引き起こすことがあります。このグループには、ダウン症候群、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症 (ADHD)、またはニューロダイバーシティの人が含まれます。

### 発話と言語

発話障害は、軽度の不明瞭な発声から、話すための口を動かすことが完全にできない状態まで多岐にわたります。発声する物理的な能力は、その人の言語能力と完全に無関係である場合があります。

### 視覚

視覚障害は、視力の低下、視力明瞭度の低下、特定の色や明るい色に対する感度の亢進または低下から、色覚異常や片目または両目の視力の完全な喪失または矯正不可能な喪失まで、多様な症状を含む場合があります。

この分野への取り組みを開始する際、何とすべきか、何とすべきかという用語の使い方について迷うことは多いかもしれません。しかし、これらが障壁となって前進が妨げられることがあってはなりません。適切な用語について、全員の見解が一致しているわけではありません。

FIFAは、アクセシビリティ分野で使用される用語が地域や組織によって異なることを認識しています。FIFAは、現在最も適切であると考えられるアクセシビリティ用語を明示するため、『アクセシビリティ用語ガイド』を作成しました。ただし、これらの用語は常に進化しており、変更される可能性があることを前提としています。いずれの場合も、個人の好みは尊重されるべきです。

この資料に加え、地域や全国の障害者支援団体または非政府組織(NGO)と連携し、ご自身の地域に適した用語体系を確立するための支援を受けることをお勧めします。



## 個人中心のアプローチ

---

障害のある人々は、同じ障害であっても、その経験は人により異なることがほとんどです。各人が独自の経験を持っていることを認識することで、思い込みを避けることができ、その個人の目標を完全に理解して支援し、潜在的なアクセス要件に対応するための合理的な調整を行うことが可能になります。個人中心のアプローチをとることで、障害のある人々の多様な能力に焦点を当て、その障害そのものではなく、その人が何ができるかに注目することができるようになります。

障害とアクセシビリティに関するテーマに取り組む際は、関連する経験を有する人と相談の上で行うことをお勧めします。

## 障害の社会モデル

---

障害の社会モデルは、ある人が特定の障害や健康状態を有している場合でも、実際には、その人の経験、機会、選択肢を制約しているのは、外的な障害や課題である可能性があるという認識です。これらの障壁が除去されると、障害のある人は社会において自立し、平等な立場で、人生における選択とコントロールを保持することができるのです。

以下の要素が考えられます。

- **建築環境の物理的設計:** 障がい者がアクセスできない建物、施設、またはサービス(例えば、車椅子利用者が更衣室やプレーエリアにアクセスするためのスロープやその他の設備が欠如している場合)またはスタジアム内のスペースが車椅子利用者に適さない。

- **オンラインサービスのデジタルデザイン**
- **他者の態度や偏見**(場合によっては障がい者自身の認識を含む): ステレオタイプ、差別、偏見など。これには、障がい者にはできないと決めてかかることや、障がい者がスポーツに参加するのを拒否する行為も含まれます。
- **システムとプロセス**: 例えば組織の柔軟性のないポリシー、手順、および慣行。これには、障害のある参加者に対して参加できるようにするためにスポーツのルールを適応させることや、適切な装備を提供することなどの合理的な配慮を考慮しないことが含まれます。

アクセシビリティについて考える際、重要なのは障害ではなくその人自身を見ることです。例えば、車椅子を使用する人は、車椅子でアクセスできない段差や急な傾斜がある場合にのみ障害があります。同様に、視覚障害や部分的な視力障害のある人は、情報がアクセス可能な形式で提供されていない場合や、物理的な障害物や転倒の危険によってアクセス経路が塞がれている場合にのみ障害があります。したがって、障害を引き起こすのは環境であり、個人の状態ではありません。ただし、障害を自己認識し、障害が自身のアイデンティティの一部であり、無視されたり軽視されたりしたくないと考える人々もいることを認識することも同様に重要です。



### 事例

- 車椅子利用者が電動車椅子フットボールの活動に参加したいと考えていますが、施設へのアクセスに問題があり(建物の入り口に複数の段差があるため)参加が困難です。社会モデルに基づく解決策として、入り口にスロープを設置することで、車椅子利用者が支援がなくても建物内にアクセスできるようになります。
- 視覚障害のある人が、地域でブラインドフットボールをプレーできる場所を調べたいと考えています。しかし、すべての広報資料がアクセス可能なコミュニケーションツールとして対応していないため、適切な情報を得ることができません。社会モデルに基づく解決策では、セッションの広報をする際に、すべての広報資料がすべてのスマートフォンアプリとスクリーンリーダー(音声読み上げ)に対応するようにします。これにより、視覚障害のある人も、他の人と同じ条件で活動にアクセスできるようになります。
- 聴覚障害のある人が、初めてフットボールクラブでフットボールをプレーしてみたいと考えています。しかし、クラブのウェブサイトを確認したところ、問い合わせるための唯一の方法が、クラブの事務所に電話をかけることしかありませんでした。社会モデルをとる場合、クラブは以下のような別の方法を提供します:手話通訳者を介したビデオ通話サービスで会話が円滑にできるようにする、メールやウェブサイト、ソーシャルメディアページ上のチャットツールなどの書面でのコミュニケーションチャネルを整備する等。

すべてのサービス提供者は、自地域の関連する障害関連法令に精通するよう努めることが推奨されます。

最後に、障害のある人は差別や虐待にさらされやすい傾向にあることを念頭に置いておくことが重要です。差別を目撃した場合に報告するための、セーフガーディングポリシーや仕組みについて確認し、把握しておくようにしてください。



## アクセスのしやすさを享受する人

この資料の主な目的は、障害のある人がサッカーをプレーできるようにすることですが、アクセスしやすい環境は他の多くの人々にも利益をもたらします。これには、高齢者、妊娠中の女性、幼い子どもを持つ家族、幼い子ども自身、怪我をした人、移動に制限のある人等が含まれます。ほとんどの人は、自然な老化プロセスとそれに伴う感覚機能や身体機能の低下により、人生のどこかの段階でアクセスしやすい環境の恩恵を受けることになります。

### 事例

- 車椅子の利用者が利用可能なルートは、ベビーカーを押す人や重い荷物を載せたカートを押す人にとっても有用です。
- 図やイラストで表示をすることで、現地の言語を理解しない人にも対応できます。
- コロナ禍の間、自動ドア、非接触式水栓、およびソープディスペンサーは、ウイルス拡散防止のため、移動に制限のある人々ばかりでなく、誰もが活用しました。
- 混雑したバーやレストラン等では、全員の利便性を考慮して、テレビの字幕が表示されています。
- バス路線やその他の交通路線において色分け表示(知的障害のある人を対象に設計されたもの)があると、公共交通機関を利用する際、誰もが方向を把握しやすくなります。



©JSFA

# 2. 障がい者 フットボール



## 障がい者のスポーツ参加

障害のある人のスポーツ参加は、身体のみならず、社会的インクルージョン、精神的健康、および個人としての成長を促進する点で非常に有益です。残念ながら、障害のある成人は、障害のない人と比べて身体活動が著しく低い傾向にあります。<sup>1</sup> 後天性神経障害がある人で、世界保健機関 (WHO) が推奨する身体活動レベルを実践しているのは20%未満です。<sup>2</sup> また、脊髄損傷を有する個人は50%以上が身体活動不足です。<sup>3</sup>

さらに、この格差は幼少期から始まっています。研究によると、障害のある幼少期や思春期の子どもは、障害のない同年代の子どもに比べてスポーツ活動への参加率が大幅に低いことが示されています。<sup>4</sup>

<sup>1</sup> Carroll DD, Courtney-Long EA, Stevens AC, et al. Vital signs: disability and physical activity - United States, 2009-2012. *MMWR Morb Mortal Wkly Rep.* 2014; 63(18): 407-413.

<sup>2</sup> Declerck L, Kaux J-F, Vanderthommen M, Lejeune T, Stoquart G. The Effect of Adaptive Sports on Individuals with Acquired Neurological Disabilities and Its Role in Rehabilitation. *Curr. Sports Med. Rep.* 2019; 18(12): 458-473.

<sup>3</sup> Yazicioglu K, Yavuz F, Goktepe AS, Tan AK. Influence of adapted sports on quality of life and life satisfaction in sport participants and non-sport participants with physical disabilities. *Disabil. Health J.* 2012; 5(4): 249-253.

<sup>4</sup> World Health Organization. *Global report on health equity for persons with disabilities.* 2022.



この活動不足によって、肥満、心臓病、糖尿病などの深刻な健康問題の発症リスクがさらに高まっています。世界保健機関(WHO)はこの格差を認識し、障害のある人向けの具体的な身体活動ガイドラインを発表し、推奨する運動週150分以下でも、意味のある健康上の利益をもたらす可能性があることを明記しています。<sup>5</sup>

スポーツへの参加不足は、身体的健康だけでなく、社会参加や感情的な幸福感にも広範な影響を及ぼします。スポーツへの参加は、障害のある人が他者とつながり、社会的孤立を軽減し、自己肯定感を高めるための強力なツールです。研究では、スポーツがチームワーク、共感、リスペクトを促進し、障がい者のコミュニティとより広い社会の両方で所属感を生み出すことが示されています。研究結果によると、スポーツへの参加が障害のある人の自信を著しく高め、心のウェルビーイングに貢献し、新しい友人を作り、コミュニティとのつながりを深めるのに役立つことが示されています。

スポーツ、特に障がい者フットボールは、エンパワーメントのプラットフォームとして機能しています。参加することで、障害のある人は身体的な健康を向上させるだけでなく、レジリエンスや問題解決能力といった重要なライフスキルを身につけ、社会的地位や自己価値感を高めます。障害に適応させたスポーツへの参加は、孤立感の軽減に役立ち、個人成長とエンパワーメントの機会を創出することが示されています。

障がい者フットボールへの参加を拡大することは、よりインクルーシブで公正なスポーツ文化を築く上で不可欠です。これにより、障害のある人は体力向上、メンタルヘルス改善、社会への統合の促進といった恩恵を受けることができます。さらに、障害に対する偏見や壁を打破し、障

---

<sup>5</sup> World Health Organization. WHO Guidelines on Physical Activity and Sedentary Behaviour: At a Glance. 2020.



害のある人の受容とインクルージョンに向けたより広範な文化的な変化を促進する役割も果たします。

障がい者に適応させたスポーツ、つまりは障がい者フットボールは、潜在的な独立した公衆衛生への介入として考えることができます。「障害のある個人が自身の健康プロセスに積極的に参加する新たな視点を提供し、動機付けを行う」ものであるからです<sup>6</sup>

障害のある人がフットボールに参加する機会は、これまでにないほど増えています。

FIFAは、あらゆるレベルでインクルーシブなフットボールの普及と支援を推進することにコミットしています。

**注:** 本稿の執筆時点において、障がい者の身体活動に関する研究の量と質は、一般人口の身体活動に関する研究に比べ著しく遅れています。障がい者と身体活動に関する既存のデータの大部分は高所得国で収集されており、低・中所得国におけるデータを収集し、データを改善することが最優先課題であります。

---

<sup>6</sup> Isidoro-Cabañas E, Soto-Rodríguez FJ, Morales-Rodríguez FM, Pérez-Mármol JM. Benefits of Adaptive Sport on Physical and Mental Quality of Life in People with Physical Disabilities: A Meta-Analysis. *Healthcare*. 2023; 11(18), 2480.



### 事例

#### オセアニアにおける障がい者フットボールが社会と健康に及ぼす影響

OFC(オセアニアフットボール連盟)の「Just Play」社会貢献プログラム(フットボールを通じた学びと健康、ジェンダー平等、社会的インクルージョン、セーフゲーディング、遊びと身体活動に関するメッセージを統合する、「Football for Good」イニシアチブの一環で、フットボールへの積極的に楽しく参加することを通じて達成する取り組み)は、オセアニア地域で障害のある人が、組織化されたフットボールに参加する最もアクセスしやすい機会の一つです。

2009年に設立された「Just Play」プログラムは、オセアニア地域で40万人を超える子ども達にリーチしています。このプログラムは、障害のある子ども達がフットボールを中心とした活動に参加することを促進し、障害のある成人にはプログラムのボランティア、指導者、運営者として参加することを奨励しています。Just Playは、障害の有無に関わらず、すべての人を対象にしたインクルーシブなフットボールセッションを主催しています。このプログラムは、参加者の障害の有無に関わらず、健康面と社会面の両方で明確な利益をもたらすことを示しています。例えば、プログラム終了後、障害のある人がフットボールをプレーできると考える参加者が30%増加しました。参加した障害のある子ども達は、新しい友達を作ることと新しいスポーツを学ぶことが、プログラムに参加した最大のメリットだと語っています。

このプログラムの成功には以下の要因が考えられます。

- 各国協会と、教育省、障害者支援団体、NGO、学校、地域団体などの他の地域ステークホルダーとの優れた連携がとれたこと
- OFCの各国協会間で好事例が共有され、成功したプログラムを同様に実施し適応させることが可能になったこと
- 指導的な立場に立つ人を研修・養成するアプローチで、インクルージョンを理解するプログラム人員の教育を助けたこと
- 「フットボールフェスティバル」の柔軟な形式で、最小限の設備で実施できるコミュニティイベントを企画し、あらゆるレベルの参加者が楽しめる適応性の



高いゲームを取り入れたこと

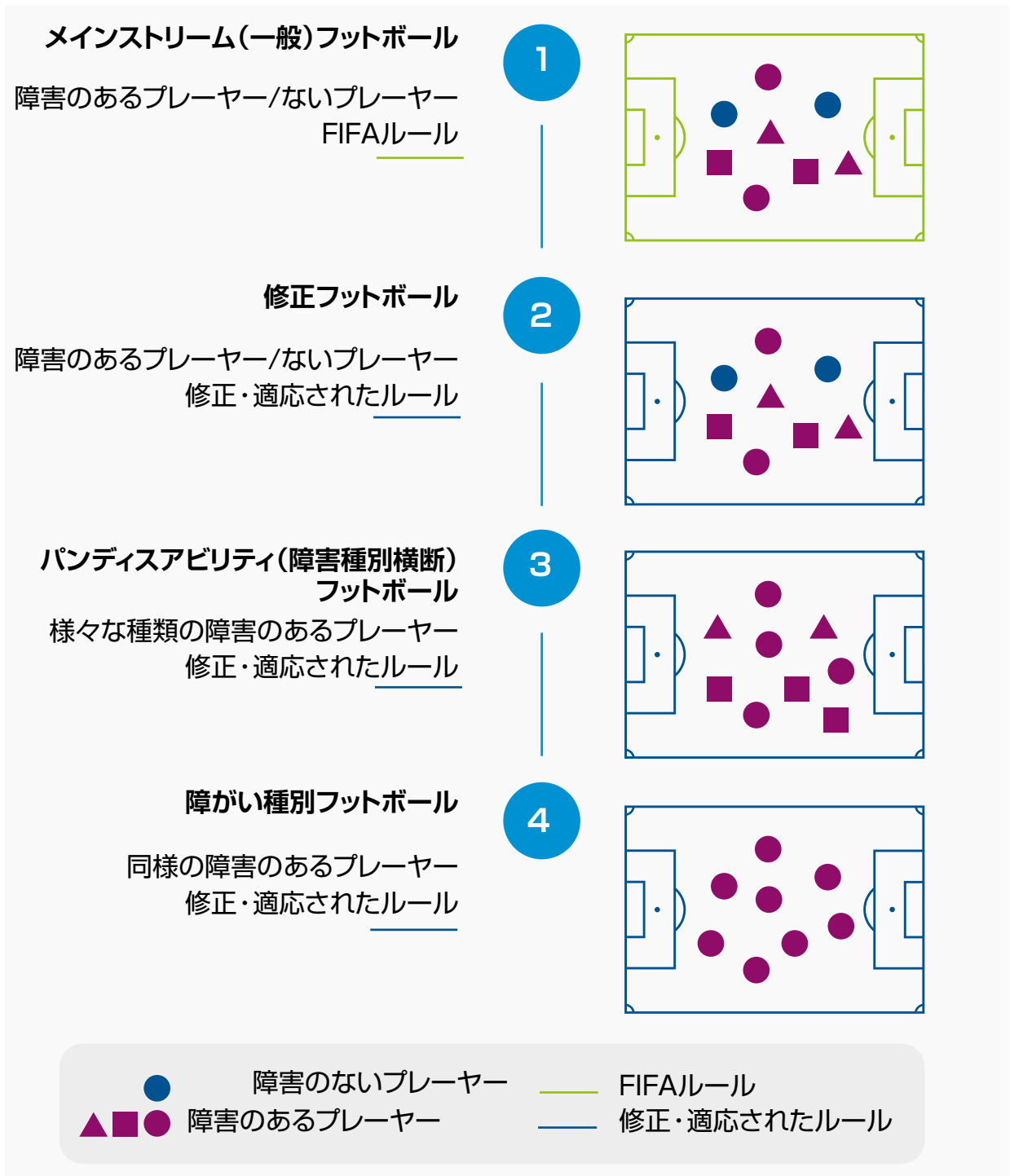
- 各国協会とスペシャルオリンピックスとの戦略的パートナーシップにより、特別支援学校と連携して活動を実施したこと

Just Playに関しては[こちら](#)



# 障がい者フットボールとは？

障がい者フットボールは、障害のある人や移動に制限のある人が、特別な用具やルール変更の有り、または無しで参加できるあらゆるフットボールの形式を指す総称です。障がい者フットボールには4つの形式があります。





---

[ツール: 主要な国際連盟、国際組織一覧](#)

---

これらの4つの障がい者フットボールのフォーマットを発展させることは重要であり、支援があれば、プレーヤー達が様々なフットボールのフォーマット間で自由に行き来できるようになります。例えば、障害のあるプレーヤーは、障害のない同年代のプレーヤーと一緒に(フォーマット1または2)でプレーすることができ、必要に応じて障害に特化したフォーマット(フォーマット4)に移行することで、最適な体験を得ることができます。逆に、障害のあるプレーヤーはパンディスアビリティフットボール(フォーマット3)でプレーを開始し、自信と自己肯定感を高めるにつれ、メインストリームフットボール(フォーマット1)に移行したり、障害種別特化型フットボール(フォーマット4)が提供するハイパフォーマンスコースを選択したりすることが可能です。

障害のあるプレーヤーに様々なフォーマットを提供すること(ツイン・トラック・アプローチと呼ばれる)は、他の障がい者スポーツにおいて成功したアプローチであり、個人が選択するフォーマット(1、2、3、または4)に関わらず、誰もが安全で歓迎される環境で参加できるよう支援します。組織がインクルーシブでないメインストリームフットボールのフォーマットしか提供していない場合、これらの様々なフォーマットを拡大する方法や、どこから始めるべきかについては、[第3章](#)を参照してください。



## メインストリーム(一般)フットボール

「メインストリームフットボール」とは、FIFAのルールに従う最も広く知られているフットボールの形態を指します。誰でもプレーできます。ただし、チーム、クラブ、リーグは、障害のある人の参加を促進するために必要な措置を検討する必要がある場合があります。例えば、トレーニングや試合中に補聴器や人工内耳の着用を許可したり、義肢を使用する人々の参加を許可したりすることが必要になる場合があります。色覚障害のあるプレーヤーもメインストリームフットボールをプレーしていますが、彼らを支援する方法に関してはほとんど認識されていません。

### 事例

メインストリームのフットボールチームで最高レベルでプレーしてきた**著名なプレーヤーで障害のあるプレーヤー**がいました。例えば以下のようなプレーヤー達です。

- マッケンジー・アーノルド(オーストラリア女子代表チームのゴールキーパー)は聴覚障害がありますが、この事実を2023 FIFA女子ワールドカップ™で初めて明かしました。
- 元プレミアリーグのディフェンダー、ジョン・オケインは自閉症であり、29歳でサッカーから引退した理由として、メンタルヘルス問題と障害に伴う困難を挙げました。彼は、メインストリームのフットボール界でプレーしていた当時、自身のニーズに応えるための追加の支援を受けられたならばプレーを続けていたかったと述べています。
- カーソン・ピケットは、アメリカ女子代表チームでディフェンダーとしてプレーしたプレーヤーで、前腕切断者です。
- オスカー・デ・マルコスとトマス・デラニーは色覚障害のため、試合中のチームメイトを識別するために特定の方法に頼っています。例えば、シャツの色ではなく、ショーツやソックスの色を確認することで識別しています。



イングランドでは、**イングランドフットボール協会(The FA)**は、**メインストリームの育成ルートが可能な限りインクルーシブであるよう、全国的な取り組みを実施しています。**

- FAの特別措置ポリシーは、身体に障害のある子どもや身体の発達に著しい遅れがある子どもが、その身長や発達段階に最も適した年齢層のグループでフットボールをプレーできるようにするためのものです。
- ガイドラインでは、イングランドFA公認の試合において、プレーヤーは補聴器および人工内耳を装着してプレーすることが認められています。
- 切断障害のあるプレーヤーは、イングランドFA公認の試合で義肢を着用するための特例措置を申請することができます。



**色覚障害**は、世界中で3億人以上の人に影響を及ぼしています。世界中で男性の12人に1人、女性の200人に1人が色覚異常を経験しています。最も一般的なタイプの色覚障害は、赤と緑を区別するのが困難というものです。別のタイプでは、青と黄色が似て見える、また稀なケースでは、完全な色覚障害がある個人が存在し、彼らは色を全く認識できません。この状態は、フットボールの体験に重大な影響を及ぼす可能性があります。色覚障害のあるプレーヤーは、チームユニフォームやビブス、コーン、フラッグなどの装備を区別したり、相手プレーヤーや審判を明確に識別したりすることが困難になる可能性があります。

色覚障害は、プレーヤーだけでなく、ファン、審判、関係者、スタッフ、ボランティアなど、フットボールに関わるすべての人に困難をもたらします。ユニフォームや装備の色選びを慎重に検討するなどの簡単な調整で、色覚障害のある人の体験を大幅に改善することができます。これらの小さな変更は、フットボールに関わるすべての人にとってインクルーシブな環境を築く上で大きな違いを生む可能性があります。

もう1つの役立つ実践方法は、組織の広報メディア（印刷物やデジタルメディアを含む、例えばウェブサイト、コーチングアプリ、ソーシャルメディアアカウントなど）を設計する際、視覚障害のある人（色覚障害を含む）を考慮することです。

[Colour Blind Awareness](#) は、色覚障害とサッカーへの影響に関する追加の研修を提供しています。いくつかのウェブサイト、例えば [WebAIM: Contrast Checker](#) では、色覚障害のある人には写真やコンテンツがどのように見えるかを可視化できます。



カメルーン(緑のユニフォーム)とスイス(赤のユニフォーム)の試合中の通常の見え方。



同じ写真で色覚障害のシミュレーションを施したものの。対戦相手のプレーヤーを区別するのが非常に困難です。



## 修正 フットボール

この形式のフットボールは、すべてのプレイヤーが参加できるようなルールを改変しています。例えば、より小さなピッチやゴールを使用するなどの要件が設定されています。修正フットボールは、障害のある人とない人が一緒にプレーできるように設計されています。FIFAは「修正フットボール」という用語を使用していますが、他の用語(例えば「ユニファイドフットボール」や「統合フットボール」)も、ルールを適応させて障害のある人とない人がそれぞれの能力に応じて一緒にプレーできるようにした形態を指します。

このタイプのフットボールには正式な分類はありません。

### 精神障がい者フットボール

これは、メンタルヘルスに課題があるプレイヤーのためのフットボールで、フットサルを含む様々な形式でプレー可能です。ドリーム・ワールドカップは、[国際メンタルヘルスフットボール委員会](#)が主催する、メンタルヘルスに課題がある人を対象としたフットサルの世界選手権です。

### ウォーキングフットボール

ウォーキングフットボールは2011年に考案され、現在も進化と発展を続けています。このゲームは5人制、6人制、または7人制の形式でプレー可能です。ボールを保持しているかどうかに関わらず、走ったりジョギングしたりすることは禁止されています。審判から走ったと判定されたプレイヤーは、2分間ピッチを離れる必要があります。ボールは頭の高さを超えてプレーしてはいけません。オフサイドルールは適用されません。ウォーキングフットボールは、天然芝、人工芝、または屋内施設でプレー可能です。これは、年齢、スキルレベル、体力を問わず、すべての人を対象とした小規模で負担が少ない修正版です。ウォーキングフットボールはあらゆるレベルで人気がありますが、特に



50歳以上の層で急成長を遂げており、プレーヤーや動きのニーズに合わせたルール適応が実施されている環境で盛んに行われています。[国際ウォーキングフットボール協会](#) (FIWFA) は、ウォーキングフットボールを国際的に統括し、2023年に最初の公式FIWFAワールドネーションズカップを開催しました。詳細については[UEFAウォーキングフットボールツールキット](#)と[FIWFAゲーム規則](#)をご確認ください。

### 事例

**スペシャルオリンピックスは「ユニファイド・フットボール」を提供しています。**このプログラムでは、知的障害のあるプレーヤーとないプレーヤーが、互いの違いではなく、フットボールへの愛を共有することに焦点を当ててプレーします。

ユニファイド・スポーツでは、チームは年齢と能力が近い人で構成されています。これにより、トレーニングがより楽しみやすくなり、試合がよりチャレンジングでエキサイティングなものになります。世界中で120万人以上がスペシャルオリンピックスのユニファイド・スポーツに参加しており、レクリエーション、育成、競技の3つのレベルでプレー可能です。

スペシャルオリンピックスについては詳しくは [こちら](#)

**レイ・ケネディ・カップ**は、パーキンソン病患者を対象とした国際的なフットボール大会です。週末にかけて、メインストリーム(一般)のルールとウォーキングフットボールのルールを併用した試合が実施されます。この大会は、パーキンソン病患者であるアスリート達によって運営されています。試合の審判は、開催地の協会の審判が務めます。現在、主にヨーロッパから約10チームが参加し、男子チームと男女混合チームでの試合が行われています。このイベントは、パーキンソン病患者の身体活動、ウェルビーイング、ネットワークの構築を支援しています。この大会は、アーセナルとリバプールでプレーした故レイ・ケネディを称えたものです。彼は32歳で若年性パーキンソン病と診断され、キャリアを断念せざるを得ませんでした。

レイ・ケネディ・カップについては詳しくは [こちら](#)



## パンディスア ビリティフット ボール (障害種別横断 フットボール)

パンディスアビリティフットボールは、脳性麻痺、四肢切断者、車椅子使用者など、多様な障害や健康状態のプレーヤーと一緒にプレーできるスポーツです。このスポーツは、アダプティブ・フットボールまたはアダプテッドフットボールとも呼ばれます。

このタイプのフットボールには正式な分類が存在せず、ハイパフォーマンス競技会へのパスウェイも確立されていません。

パンディスアビリティフットボールの形式は多様ですが、通常は5人制、7人制、または9人制の少人数制ゲームであり、プレーヤー達がメインストリーム、修正、または障害種別に特化したフットボールにおいて、自身の可能性を最大限に発揮する機会を提供します。

可能な限り、コンペティションの環境では能力に応じたグループ分けが採用され、チームは年齢や能力のカテゴリーに分類されます。男女混合の競技会も簡単に設定することができます。



### 事例

#### イングランドにおけるパンディスアビリティフットボール

イングランドFAは、障害のある人向けに3つの主要な競技プログラムを提供しています。メインストリーム(一般)フットボール、パンディスアビリティ(障害種別横断型)フットボール、および障害種別フットボールです。

パンディスアビリティのパスウェイは、多様な障害や健康状態のプレーヤーが一緒にプレーできる仕組みです。イングランドのコンペティションベースの機会の大多数がこの形式を採用しており、これによりパンディスアビリティ・パスウェイは障がい者フットボールの最大のパスウェイとなっています。障害や長期的な健康状態のある人は誰でもパンディスアビリティフットボールに参加できます。ただし、全盲のプレーヤーや車椅子使用者には、障害に特化したプログラムへの参加が推奨されています。

イングランドの40を超えるカウンティ(州)フットボールリーグにおいて、1,600を超えるパンディスアビリティチームが活動しています。これらのチームとリーグは、障害者のプレーヤー育成パスウェイの基盤を成し、プレーヤーが定期的に競技に参加できる環境を提供しています。多くの場合、これらのカウンティをベースとしたリーグは、カウンティフットボール協会が様々な組織と協力して設立・支援されており、パンディスアビリティフットボールが標準化され、持続的に運営されるようになっています。

それらのリーグは発展段階が様々に異なりますが、一般的には以下の共通点があります

- 試合はシーズン中、少なくとも月1回開催され、セントラル開催されています。
- 試合は少人数制で行われます(通常は5人制、7人制、または9人制)。
- ジュニアフットボールでは、年齢区分の上限が4歳刻みで設定されており、通常はU-8、U-12、U-16のカテゴリーで競技が実施されます。
- 16歳未満の者は、大人対象のパンディスアビリティフットボールに参加することはできません。
- レベル分けは3段階あります。
- 女性だけの機会が存在しない場合、成人男女混合競技においてFAの特例措



置が適用されます。

一部のプレーヤーにとって、所属チームでのフットボールは、時間や能力の不足、または単にコンペティションフットボールをプレーしたくないという理由から、選択肢にはなりません。イングランドでは、大人と子ども双方を対象に、様々なデザインされたフットボール参加プログラムが存在し、組織化はされているけれどもカジュアルな形で、純粋に楽しむためのフットボールをプレーできる環境を提供しています。イングランドでは、障がい者フットボールにとって、これは成長著しい重要な分野となっています。なぜなら、誰もがチームでコンペティションフットボールでプレーしたいわけではないからです。

イングランドのパンディスアビリティフットボールについて詳しくは[こちら](#)



## 障害種別 フットボール

障害種別に特化したフットボールは、同じ障害のある人々が一緒にプレーできるように設計されています。様々な形式があり、それぞれがプレーヤーの障害の特性に合った設計となっています。以下に例を挙げると、ブラインドフットボール、CP(脳性麻痺)フットボール、電動車椅子フットボールなどがあります。

障害に特化したフットボールは、グラスルーツレベルからエリートレベルまで、幅広い機会を提供しています。

世界選手権や地域選手権、パラリンピック大会、およびその他の国際大会があります。同じ障害のあるプレーヤー向けに特別に設定されたルールが適用されます。ほとんどの競技では、プレーヤーはクラス分けがあります(つまり、障害がフットボールのプレーに与える影響の程度が評価されます)。

**注:** 障害のない人も、もちろん障害に特化したフットボールに参加することは可能です(例えば教育機関での活動、レクリエーションレベルでのプレー、友人や家族とのプレー、または練習や試合に参加する人数を確保するためなど)。ただし、障害のないプレーヤーはクラス分け対象外であり、障害に特化したフットボールの競技会に参加することはできません。

障害種別フットボールの主要な種目を、以下にアルファベット順に示します。その他の形態やバリエーションも存在しますが、目下、参加者は非常に限られています。



## アンプティフットボール

**ゲーム:** 個々のプレーヤーが選択する形式で義肢の有りまたは無しでプレー可能です。公式ルールでは、[世界アンプティフットボール連盟](#) (WAFF) が採用するフォーマットとしては、国際試合での7人制形式で、膝上または膝下の片足切断選手はクラッチを使用し、ゴールキーパーは片腕切断選手で構成されます。

各チームは6人のフィールドプレーヤーと1人のゴールキーパーで構成されます。スローインの代わりにキックインが使用され、オフサイドルールは無し、選手交代が無制限に許可されていますが、プレーの停止時のみ可能です。選手交代は「ロールオン、ロールオフ」方式で無制限に可能です。

**特別な用具:** プレーヤーは競技を行うためにクラッチが必要です。

**競技の構造と大会:** WAFFは、アンプティ(切断障がい者)フットボールを総括する障害に特化した国際組織です。WAFFは、4年毎の競技サイクルの頂点となる「アンプティ・ワールドカップ」を主催しています。これには、各大陸で開催される地域選手権が存在し、これらの大会はワールドカップの予選大会として機能しています。女子アンプティフットボールも急速に発展しており、2024年に初の「女子アンプティフットボールワールドカップ」が開催されました。これ以前には、女子選手を含む混合チームでアンプティ・ワールドカップに参加することが認められていました。



## ブラインドフットボール

**ゲーム:** ブラインドフットボールは、5人制フットボールとも呼ばれ、FIFAのルールを適応させた競技です。すべてのプレイヤーは視力に関わらずアイマスクを着用し、晴眼の指導者がサイドラインから指示を出して支援します。ゴールキーパーは視覚障害がありません。ボールは音が鳴るようになっており、プレイヤーが方向を把握できるようになっています。

視覚障害のあるプレイヤーにとってコミュニケーションと聴覚スキルが非常に重要であるため、ボールがプレー中である間は、観客は静かにする必要があります。これにより、プレイヤーはボールの音を聞き取り、互いにコミュニケーションを取ることができます。ピッチのサイズは、長さ38m～42m、幅18m～22mです。タッチライン沿いにサイドボードが設置されており、ボールがピッチ内にとどまりプレーし続けることができます。

ボールがサイドボードを越えたり、ゴール後方に抜けた場合、ファールがあった場合、試合開始時、またはゴールが得点された後にはプレーがリスタートとなります。スローインはなく、オフサイドルールもありません。

**特別な用具:** 小さなゴール、小さなピッチにサイドボード、内部に鈴が入った専用のボール、およびアイマスク。

**競技の構造と大会:** この競技は、[国際視覚障害者スポーツ連盟](#) (IBSA)によって統括されています。ブラインドフットボール(5人制フットボール)は、2004年アテネパラリンピックからパラリンピックの正式種目として採用されています。視覚障害者フットボール世界選手権は、パラリンピックの開催年を除いて4年毎に開催されています。公式の分類は3つあります。現在、パラリンピックプログラムには男子のブラインドフットボールチームのみが参加してお



り、2028年ロサンゼルスまたは2032年ブリスベンパラリンピックで女子チームの追加が検討されています。国際パラリンピック委員会の用語に従い、5人制フットボールは障害フットボールの種目の中で唯一「パラフットボール」と呼べるものです。

### ロービジョンフットボール

**ゲーム:** ロービジョンフットボール選手は、ある程度の視力(B2、B3に分類)を有しています。一方、ブラインド(全盲)のフットボール選手は、最も良い場合でもわずかな光覚を有するのみです。ロービジョンフットボールでは、ゴールキーパーは完全な視力を持つか、軽度の視覚障害を有するプレーヤーが務めます。競技規則はFIFAの5人制フットサル規則を基に、一部調整が加えられています。

**特別な用具:** ピッチ全体で、試合中を通じて光は均一な強度でなければなりません。ボールはピッチとラインと明確に区別できる色で、内部に鈴を内蔵していないものです。プレーヤーはアイマスクを着用しません。視覚的な混乱を避けるため、ピッチエリアには他のマークや表示がないようにします。

**競技の構造と大会:** この競技は、国際視覚障害者スポーツ連盟(IBSA)によって統括されており、IBSAワールドゲームズの一環として行われています。



## CP(脳性麻痺)フットボール

**ゲーム:** 脳性麻痺は世界中で約1,700万人に影響を及ぼし、障がい者スポーツに参加する最も一般的な障がい者グループの一つです。CPフットボールは、脳性麻痺で生まれた人、外傷性脳損傷、脳卒中、または脳由来の神経性運動制御障害により、永久的で証明可能な活動制限を有する人を対象としています。

CPフットボールは、より小さなピッチで、小さなゴールを使用し、オフサイドルールはありません。試合は、30分間ハーフで構成されます。

**特別な用具:** 競技場のサイズは70m×50mで、ゴールは5m×2mです。

**競技の構造と大会:** CPフットボール(旧称:フットボール7人制)は、リオ2016パラリンピック以降、パラリンピックの競技種目から除外されています。最高峰の大会は、4年毎に開催されるIFCPF男子・女子ワールドカップです。この競技は、[国際CPフットボール連盟](#) (IFCPF) が統括しています。高いレベルで競技を行うためには、クラス分けが必須です。



## デフ(聴覚障がい者)フットボール

**ゲーム:** これは聴覚障がいのあるプレイヤーのためのフットボールです。聴覚障がい者のフットボールは、メインストリーム(一般)のFIFAルールに基づく11人制フットボールまたはフットサルとして行われます。プレイヤーは競技中に聴覚補助装置(補聴器や増幅器)や人工内耳の外付けの部品をすべて外します。審判はホイッスルで試合の開始と終了を指示しますが、プレーの停止を示すために旗も使用します。プレイヤー、指導者、審判は手話を使用してコミュニケーションを取ることもあります。多くの聴覚障害のあるプレイヤーは、聴覚補助器具を着用することを許可されるメインストリームのフットボールで競技することを選択しています。

**特別な用具:** 特別な用具は不要です。

**競技の構造と大会:** この競技は、[デフ国際フットボール協会](#) (DIFA)が管轄しており、11人制とフットサル形式で男女のプレイヤーを対象に4年周期の大会を開催しています。1924年の大会創設以来、フットボールが採用されているデフリンピックは、11人制の最高峰の大会です。聴覚障がい者フットボールの競技会では、出場プレイヤーはより良い方の耳の聴力損失が55dB以上であることが参加資格の条件となっています。



## ダウン症候群フットボール

**ゲーム:** 知的障害と身体障害を併せ持つプレーヤーを対象としたフットボール。対象はダウン症候群(トリソミー21)またはモザイク型ダウン症候群のプレーヤーです。ダウン症候群フットボールは、フットサルとしてもプレー可能です。

**特別な用具:** 特別な用具は不要です。

**競技の構造と大会:** この競技は、ダウン症候群のプレーヤーのための国際フットボール連盟(Football International Federation for Players with Down Syndrome)と、[ダウン症候群のプレーヤーのためのスポーツ連合](#)によって統括されています。ダウン症候群のプレーヤーは、知的障がい者フットボールの大会にも参加可能です。



## ドワーフフットボール

**ゲーム:** これは、低身長による身体障害のあるプレーヤーを対象としたフットボールです。ドワーフフットボールは、8人のプレーヤーでプレーするフットボールまたは7人のプレーヤーでプレーするフットサルとして行われます。競技の公平性を確保するため、4つのクラス分けが設けられています。ドワーフフットボールの競技では、クラス4のプレーヤーは試合の最初のハーフのみに出場可能です。クラス1、2、3のプレーヤーは試合全体に出場可能です。FIFAのルールが適用されますが、一部例外があります（ボールに頭で触れることやスライディングタックルは禁止され、試合は25分間の前後半で構成されます）。

**特別な用具:** 特別な用具は不要です。

**競技の構造と大会:** [国際ドワーフスポーツ連盟](#)

(International Dwarf Sports Federation)が競技を統括しています。ワールドゲームズは4年毎に開催され、プレーヤー達が複数のスポーツに参加する機会を提供します。最も人気の高いスポーツはフットボールです。予選大会は行われず、各国は各年齢カテゴリーへのチーム参加の有無を表明します。女子競技が開催されない場合、混合チームが認められます。チームを編成できない国は、混合国チームでの参加が許可されます(例:フランスとドイツ)。



## フレームフットボール

**ゲーム:** これは身体障害のあるプレーヤーを対象としたフットボールで、現在、筋緊張亢進症、運動失調症、アテトーゼなどが対象となっています。この競技は現在開発中の段階にあります。プレーヤーは後方姿勢歩行器、歩行フレーム、クラッチ、または杖を使用して競技を行います。フレームフットボールは芝生やその他の多様なサーフェスでプレー可能ですが、参加者ができるだけスムーズに動くことができるよう、表面が滑らかであることが最も重要です。走ることが可能なプレーヤーは走ることが許可されています。

**特別な用具:** 各選手用の歩行補助用具(歩行器、歩行フレーム、クラッチ、または杖)。

**競技の構造と競技:** この競技は、[国際CPフットボール連盟](#) (International Federation of CP Football)によって管轄されています。現在、ハイパフォーマンス競技、クラス分け、または国際大会へのパスウェイは存在しません。



## 知的障がい者フットボール

**ゲーム:** 知的障害や発達障害 (IDD) を有するプレーヤーを対象としたフットボールです。IQが75以下で、適応行動を有し、18歳未満で障害が認められたプレーヤーが参加します。知的障害フットボールは、11人制フットボールまたはフットサルとして行われます。

**特別な用具:** 特別な用具は不要です。

**競技の構造と大会:** 11人制フットボールとフットサルは、知的障害のある人々のための国際スポーツ連盟である [Virtus](#) (ヴィルトゥス) によって統括され、推進されています。Virtus Global Games (ヴィルトゥス・グローバル・ゲームズ) では、プログラムの一環としてフットサルが実施されています。次の大会は 2027年にエジプトで開催されます。

知的障害のある人々を対象としたフットボールを非エリートアプローチで提供する [Special Olympics](#) (スペシャル・オリンピックス) も存在します。世界中で知的障害のあるフットボールプレーヤーは106,500人おり、6,500人の指導者が、グラスルーツレベルから国内・国際大会まで、58カ国で活動しています。2021年、スペシャルオリンピックスフットボールは選手数においてスペシャルオリンピックスで2番目に人気のスポーツでした。スペシャルオリンピックスフットボールは11人制、7人制、5人制、およびフットサルの形式でプレー可能です。フットサルと11人制フットボールの試合はFIFAのルールを基に、プレー時間、交代、延長戦に関するルールに一部変更が加えられています。スペシャルオリンピックスは4年毎にスペシャルオリンピックスワールドゲームズを開催しています。



## 電動車椅子フットボール

**ゲーム:** これは身体障害のあるプレーヤーのためのフットボールで、車椅子を使用する人なら誰でも参加できます。プレーヤーは競技レベルでこのスポーツをプレーするために、電動車椅子を使用します。電動車椅子フットボールは、バスケットボールコートでフットサル形式で行われます。チームはゴールキーパーを含む4人のプレーヤーで構成され、より大きなボールを使用してプレーします。ゲームの目的は、相手チームのゴールラインを越えてボールを運ぶことを目指し、相手チームにされないように防ぎます。チームは男女混合可能です。国際ルールでの試合中のパワーチェアの最大速度は10km/h(6.2mph)です。

**特別な用具:** 電動車椅子にフットガードを装着したもの。  
電動車椅子フットボール用ボール

**競技構造と大会:** [国際パワーチェア・フットボール協会](#) (FIFPA)は、この競技の国際統括団体です。2つの国際分類が存在します。車椅子フットボールは長年パラリンピックプログラムへの参加を申請してきましたが、現在も含まれていません。4年毎に開催されるパワーチェアフットボールワールドカップは、この競技の最高峰の大会です。



### 事例

**障がい者フットボールは、障害がある人が9.2%を占めると言われる日本において、既に確立されたスポーツです。**障害種別に特化した7つのフットボール団体が存在します:日本アンプティサッカー協会、日本CPサッカー協会、日本ソーシャルフットボール協会、日本知的障がい者サッカー連盟、日本電動車椅子サッカー協会、日本ブラインドサッカー協会、および日本ろう者サッカー協会です。

しかし当初、7つの団体間の連携はほとんどなく、日本サッカー協会(JFA)が各団体に個別かつ公平な支援を行うことは困難でした。そこで、様々な障害のある人達のためのサッカー団体を支援するため、JFAは2016年に、これらの団体を統括する、日本障がい者サッカー連盟(JIFF)という単一の団体を設立することを提案しました。現在では、情報がより入手しやすくなり、1つのウェブサイトを集約されています。

8,000人を超えるプレイヤーが7つの障がい者フットボール種目に参加しています。現在、ナショナルチームに所属するエリート障害者プレイヤーは、国際試合において日本代表チーム(メインストリーム(一般)サッカーチーム)と同じユニフォームを順次着用しています。

日本障がい者サッカー連盟(Japan Inclusive Football Federation)について詳しくは [こちら](#)

※2025年10月より、日本障がい者サッカー連盟に、日本ドワーフサッカー協会が準加盟しました。



©JCPFA

3



## はじめの一步

地域で障がい者フットボールを始め、  
拡大していくには？

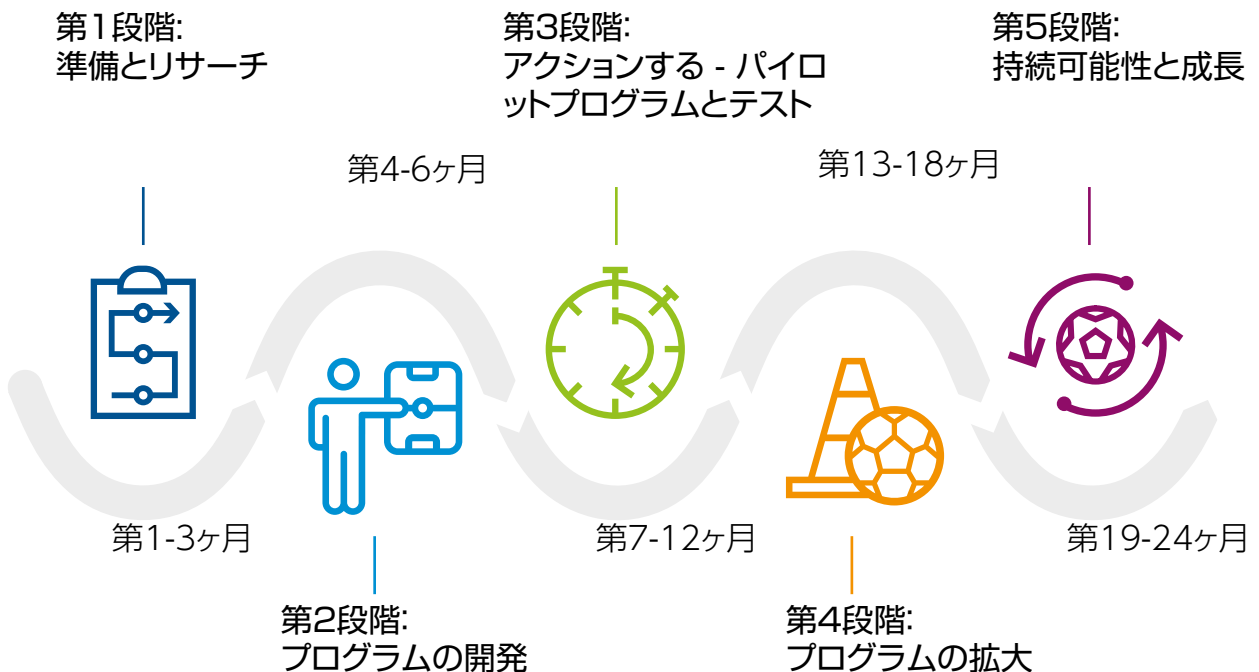




実践的なツールとテンプレートを用意しており、ご活用いただくことができます。これらの文書はガイドラインとして作成されており、各地域の状況に合わせて適宜修正してご活用ください。

この章は、既に確立された組織体制を有している各国協会もある一方で、多くの国の協会が障がい者フットボール活動の設立に向けた取り組みをまだ始めたばかりであるという認識に基づいて構成されています。

この章では、地域における障がい者フットボールの普及・発展に向けた取り組みのあらゆる段階において、皆さんの努力をサポートし強化するための17ステップのガイドを提供します。17ステップの要約は、[ワークプランツール](#)からダウンロード可能です。これらのステップを実施する目的は、障害のあるすべての人々がフットボールという素晴らしい競技に参加する機会を創出するための、長期的な持続可能なアプローチをサポートすることです。このような取り組みは、各地域の専門家、団体、自治体等と協力しながら、段階的に実施することが推奨されます。





## 第1段階:準備 とリサーチ (第1-3ヶ月)

**目的:** 国内の障がい者フットボールの現状を把握し、必要なリソースと専門知識を収集します。

### ステップ1 マーケット調査を実施し、ニーズを評価する

障がい者を対象としたフットボールプログラムを開始する前に、地域のコミュニティのニーズを把握することが重要です。アンケートを実施したり、障がい者の団体と協力したりして、潜在的な参加者にとって最も適した障がい者を対象としたフットボールプログラムの形式を特定してください。参加の障壁(例:交通手段や施設のアクセシビリティ)を評価し、プログラムを地域の状況に合わせて調整してください。

地元の障がい者支援団体と協力し、フットボール参加における最も大きな課題が存在する地域を詳細に示したデータマップを作成し、そのニーズに応えるための方法をより深く理解します。

障害のある人々とスポーツに関するデータを見つけることは、しばしば困難です。しかし、障害のある人々がフットボールに興味を持っていないという一般的な誤解を打破することは重要です。適切な環境を整え、そのことを広く伝えることで、この誤解はすぐに解消されるでしょう。障害のある人向けのフットボールプログラムを設定し成功している他の団体(地域内あるいは地域外)と連絡を取り、その経験から学ぶことが重要です。



---

ツール: 障害のある人が  
スポーツに参加するのを  
防げる  
自身の障壁を特定する

---

Q & A:

- あなたの地域で現在障がい者フットボールを提供している主体はどこか?
- 現在実施されている障がい者フットボールの形式はどれか(第2章を参照してください)?
- コミュニティの誰もが、年齢、性別、障害の有無に関わらず、フットボールプログラムに参加する機会はあるか?
- 現在何人が参加しているか?
- 地域において、障がい者がスポーツプログラムにアクセスする上で主な課題は何か?
- 障がい者を対象としたフットボールプログラムやセッションがない場合、その理由は何か?過去の取り組みが失敗した場合は、その原因を調査してください。



## 事例

障がい者フットボールプログラムを立ち上げるのは、最初のうちは気が重くなるかもしれません。どこから始めればよいか分からないからです。だからこそ、同じ道を行ってきた地元の他のクラブとつながることが非常に重要なのです。

**非営利団体「サッカービリティ・カナダ」**は、全国30以上の既存のクラブ向けアクセシブルプログラムの**発展を支援するために設立されました。**

クラブをサポートするために以下の取り組みをしています。

- 四半期毎にミーティングを開催し、クラブ同士が最新情報、ノウハウ、ベストプラクティスを共有できるようにしています。
- 指導者やクラブのリーダー向けに、対面およびオンラインのワークショップを実施しています。
- ガイドラインと資料を作成しています。

サッカービリティ・カナダは、この分野における専門性をカナダサッカー協会から認められており、両組織はインクルーシブの価値を促進するため無料オンラインモジュールを共同開発しました。サッカービリティ・カナダは最近、史上初めて、視覚障がい者サッカー代表チームを率いてアメリカでの大会に参加しました。

サッカービリティ・カナダは小規模な組織であり、主にボランティアによって支えられています。助成金、スポンサー、ワークショップ参加者が支払う参加費によって運営されています。

サッカービリティ・カナダについて詳しくは[こちら](#)



## ステップ2 成功に向け早めに準備する

障がい者フットボールプロジェクトを実施するために、組織内で最適な環境を整えてください。これには以下の事項を含める必要があります。



障がい者フットボールワークプランテンプレート

- 組織内で主要な個人を任命し、取り組みを監督し推進させること。
- 組織外で協力関係(公式・非公式を問わず)を築き、助言を得られる主要な個人を特定します。  
注: 障がい者フットボール委員会など、障がい者を含む公式なワーキンググループを設置する場合、他の専門家と同様に、彼らの時間と専門知識に対して報酬を支払うことが推奨されます。
- 役割と責任と明確にします。
- 関連するタイムラインを含む作業計画を書き出します。
- プロジェクトの成功の定義を明確にし、KPIを設定します。



## 事例

障がい者フットボールを統括する適切な組織体制を構築するには時間がかかり、複数の段階が必要となる場合があります。そのため、できるだけ早く行動を起こし、成功に向けた準備を始めることが重要です。

参考までに、**スコットランド・パラフットボール組織の創設**に関する詳細情報を以下に示します。

- 2012年:スコットランドフットボール協会(SFA)は、障がい者フットボール戦略を初めて公表しました。この戦略は、5年以内に参加者を増やし、明確な競技会とキャリアパスを確立することを目的としました。
- 2017年:SFAは障がい者フットボールに関する新たな戦略を通じて、そのビジョンと願望をさらに発展させました。
- 2018年:初のパラフットボールワーキンググループが設置され、スコットランド・パラフットボールが登録慈善団体となるためのポリシー、手続き、資金調達機会が整備されました。
- 2018年:スコットランド・パラフットボールがSFA傘下の全国協会となることを可能にするため、SFAの定款に必要な変更が行われました。
- 2019年:スコットランド・パラフットボールが正式に発足し、初の定時総会が開催され、初代理事が選出されました。

スコットランド・パラフットボールはSFAの傘下であり、その目的は、パラフットボールの様々な形態をプレーする全ての人々の声となり、スコットランドのパラフットボールプレーヤーの功績を称え、インクルーシブと平等を推進することでフットボールの発展を図ることにあります。

スコットランド・パラフットボールについて、詳しくは [こちら](#)



### ステップ3 リソースを確認し、割り当てる

効果的な計画立案には、プログラムを支える財政的・人的・物的リソースの特定が必要です。会場費、機材、指導者費用などの必須経費を賄う資金を確保してください。ボランティアの参加の可能性や、外部資金・スポンサーシップによる支援の可否を検討しましょう。

障がい者フットボールプログラムの資金調達のためのヒント:

- 助成金や奨学金を申請してください。皆さんの団体がこれまで障がい者スポーツプログラムを実施したことがない場合、新規資金の対象となる可能性があります。ローカル、地域、全国レベルでの機会を必ず探ってみてください。
- 現在のコマーシャルパートナー(もしあれば)に、このプロジェクトに取り組んでいて支援が必要であることを伝えてください。パートナーは常に意義深く魅力的な取り組みを探しています。金銭的な支援だけでなく、VIK(現物提供)による支援(例:週1回のアクセスしやすい会場の無料利用、ウェブサイト更新やプロモーション動画制作の支援、新規機材、ボランティアなど)も得られる可能性があります。
- このプロジェクトについて、現在のメンバーや同僚と話し合ってください。障がい者のためのフットボールの発展に個人的に既に関係を持つ人々を含め、プロジェクトを支援し関わりたいと考える貴重な協力者を見つけられるかもしれません。



- 組織内の他部門と連携し、現在の経費を特定・見直し・最適化します。例えば、ピッチやフットサルコートが費用を払って設置されているのに今後6か月間誰も使用することになっていないケースや、別のプログラムが終了し、その指導者や予算を障がい者フットボールに充てられる可能性があるケースが見つかるかもしれません。
- パイロットプログラムを開始するために、すぐに必要なものはごくわずかです(主なコストを特定してください)。
- 地元の大学や高等教育プログラムと連携し、障がい者フットボールの指導方法を学びたいと考えている学生を特定し、ボランティアやインターンとして指導者のセッションを支援できる人材を確保できるかもしれません。



## 事例

FIFAは2017年以降、FIFAフォワード資金を通じて障がい者フットボールプロジェクトに200万米ドル以上を投資してきました。資金は直接これらのプロジェクトに配分されるわけではありませんが、大陸連盟および各国協会は、国内のグラスルーツ障がい者フットボールプログラムを支援するためにこれらの資金を活用することができます。

持続可能かつ長期的な障がい者フットボールプロジェクトを実施するNGOは、FIFA財団コミュニティプログラムを通じて資金援助を申請することも可能です。詳細は [CommunityProgramme@fifafoundation.org](mailto:CommunityProgramme@fifafoundation.org) までお問い合わせください。

障がい者フットボールプロジェクトを支援する可能性のあるその他の国際財団・組織一覧(網羅的リストではありません)

- [AFC Dream Asia Foundation](#)
- [Beyond Sport](#)
- CAF Impact Programme (no website available)
- [Common Goal](#)
- Concacaf NextPlay Programme
- [CONMEBOL Evolución Programme](#)
- [EEA Grants](#)
- [European Union/Erasmus](#)
- [Integrated Dreams](#)
- [International Sports Promotion Society \(ISPS Handa\)](#)
- [Laureus Sport for Good Foundation](#)
- [OFC Just Play Programme](#)
- [UEFA Foundation for Children](#)
- [UEFA HatTrick programme](#)
- その他、地方・地域・国の宝くじおよび財団



## 第2段階:プログラムの開発 (第4-6ヶ月)

目的:障害のある個人のニーズに応える体系的なプログラムを開発する。

### ステップ4 障がい者フットボールプログラムをデザインする

第1章および第2章で得た知識と、自身の調査・計画に基づき、障がい者フットボールプログラムの範囲と目標を特定してください。プログラムの範囲、目標、規模は、状況や障がい者フットボールの現状の発展段階によって異なる場合があります。

#### 事例

- [各国協会/組織名]内における障がい者フットボールの発展
- CPフットボール代表チームを結成し、8年後のIFCPFワールドカップ出場権を獲得する。
- メキシコで電動車椅子フットボールリーグを創設する。
- ブリスベンで女性および少女のためのアンパティフットボールを発展させる。
- クラブの指導者全員のスキルを向上させ、障害のあるプレーヤーに対応できるよう、メインストリーム(一般)のフットボールのセッションを適応させる。
- 自地域で、誰もが参加できるウォーキングフットボールプログラムを創設する。
- 自クラブで毎年、障がい者フットボールフェスティバルを開催する。



### どこから始めたらいいかわからない？

皆さんの地域において、障害のある人が以下の選択肢から選べることは重要です。

- 障害のある人が既存のメインストリーム(一般)フットボールプログラムに参加すること。そこでは必要な合理的配慮がなされ、ユニバーサルデザインの原則が組み込まれている。
- 障害のある人向けに特別に設計されたプログラムに参加する。

このアプローチは、障がい者用の選択肢とメインストリーム(一般)の選択肢のどちらかを選ばなければならないというものではなく、むしろ個人のニーズに基づいて、適切な時期と場所で、最も適切な高品質の支援やサービスに正しくアクセスできることを意味します。メインストリームのセッションに他のプレーヤーと共に参加することを好む人もいれば、障害のある仲間とプレーする方が自信を持てる人もいるでしょう。

そのため、FIFAは各地域において以下の最低限の要件を満たすことを推奨しています。

- すべての人が歓迎される環境を備えたメインストリーム(一般)のフットボールプログラム。指導者やスタッフが、障害のある人向けに練習やセッションの一部を適応させる方法を知っている。
- 幅広い障害や健康状態(例:脳性麻痺、切断者、車椅子利用者など)を持つプレーヤー達が共にプレーする、包括的な障がい者対応フットボールプログラム。指導者は各個人のニーズに合わせて練習内容を調整する方法を理解すべきであり、少人数グループ編成によりマネジメントが容易になる。



[ツール: 第2章 障がい者フットボール](#)

[ツール: 主要な障がい者フットボール組織一覧](#)

上記の選択肢が両方とも利用可能な場合、提供内容を多様にし、修正フットボールや障害種別に特化したフットボールの導入を検討することが可能です。不足している部分を特定し、年齢、性別、障がい、民族、宗教などにかかわらず、誰もがフットボールを楽しめる環境を確保するよう努めてください。

### どの障害種別フットボールから始めるべきか？

すべての障害種別フットボール競技は異なるものであり、様々な障害がある人々にフットボールを提供します。地域のコミュニティと連携し、そのニーズを理解しましょう。一部の競技はレクリエーションレベルでの機会のみを提供します(フレームフットボール、ダウン症候群フットボールなど)。一方、他の競技はハイパフォーマンスへのパスウェイにつながります(ブラインドフットボール、CPフットボールなど)。

電動車椅子フットボールなどいくつかの競技は、屋内コートや特定の用具を必要とします。

障害種別フットボールでは、パンディスアビリティ(障害種別横断)フットボールと比較して、同じ障害の十分な数のプレイヤーを集めることが難しい場合があります。

該当する国際連盟または専門家へ連絡し、それぞれの種目に関する支援とサポートを得ましょう。



## ステップ5 アクセシブルな会場を選ぶ

セッションに屋内フットサルコートや屋外フットボールピッチが必要な場合、会場のアクセシビリティの確認をすべきです。

駐車場、更衣室、競技面が車椅子利用者や移動に困難がある人に対応していることを確認してください。会場が地域の建築基準やアクセシビリティ基準に準拠しているか確認しましょう。地域の最低要件を理解するため、自ら調査することを躊躇しないでください。

障がい者フットボールを提供するためには、会場は最低限、現地の法律に準拠している必要があります。国によって規制の厳しさは異なりますが、アクセシブルな会場を選択することで、あなたの団体はポジティブな影響を与えることができます。

最も重要な点は、参加者にアクセシビリティに関する情報を可能な限り伝えることです。具体的には、公共交通機関でのアクセス方法、ピッチ近くに車椅子対応車両を駐車できるか、バリアフリートイレの有無などです。計画が鍵となります！

センサリールームや観客向けのインクルーシブな座席エリアといった先進的なアクセシビリティ機能への投資は、非常に有益なものとなりえます。



## ステップ6 用具の調達

プログラムの設計や障がい者フットボールのデザインによっては、特定の補助用具が必要になる場合があります。多くのセッションは通常のフットボール用具(ボール、ビブス、ホイッスル、コーン、ゴールなど)で実施可能です。加えて、指導者には以下の用具があると便利です:

- アダプテッドフットボール用ボール(様々なサイズ、重量、速度で利用可能。内蔵ベル付き/なし)は、運動機能、視覚、その他の感覚に配慮が必要な人に役立つでしょう
- 自立型ゴールまたはミニゴール
- リバウンドパネル
- 指導者とプレーヤー間のコミュニケーションを促進するためのその他のツール(感情カード、ホワイトボード、フィジエットイなど)

すべての用具とビブスは、色覚障害のある人へのアクセシビリティ向上のため、赤と緑を避け、高コントラストの色を使用することが望ましいです。

障害種目毎の具体的な用具の詳細については第2章を参照し、ハイパフォーマンス用具に関する規則・規定については関連する国際連盟に問い合わせましょう。



---

[ツール: 第2章 障がい者フットボール](#)

[ツール: 主要な障がい者フットボール組織一覧](#)

---

プレーヤーは、車椅子、松葉杖、義肢などの日常的な移動補助具の使用は推奨されません。代わりに、専用のスポーツ用具を使用すべきです。この用具の状態に注意を払うことが重要です。フットボールのトレーニングセッションで使用しても安全でしょうか?プレーヤーを支援するためには、スポーツ専用の用具の選択肢や利用可能な資金について調査することが有効です。これらはしばしば高額になるためです。

プレーヤーがハイパフォーマンスを目指す過程において、アンプティフットボール用クラッチや電動車椅子といったフットボール専用の補助具は、競技基準を満たすため厳格に規制されます。



## ステップ7 指導者、スタッフ、ボランティアのスキルアップ

障がい者フットボールに関する理解を深めるため、指導者やボランティア向けの研修を提供します。これには、様々な障害についての知識、コミュニケーション技術、そして全ての参加者のニーズに合わせて指導方法を適応させる手法の習得が含まれます。スタッフ養成へのこの投資は、持続可能なプログラムを構築する上で不可欠です。

障がい者フットボールプロジェクトにおける指導者、スタッフ、ボランティアのスキルアップのためには以下のようなアイデアがあります。

- 障がい者フットボールの専門知識を持つ指導者を特定し、採用します。専門家が活用可能であるか、または既に組織内で働いている場合は、彼等が他の指導者陣に知識を共有・伝達する方法を検討します。
- すべてのメインストリーム(一般)フットボールおよび障がい者フットボールの指導者に、FIFA障がい者フットボールツールキットの第1章と第2章を読むよう促してください。この研修は、その他のスタッフ、ボランティア、保護者などにも有益です。前述の通り、研修を受けた指導者を配置することで、障がい者の皆さんにメインストリーム(一般)フットボールプログラムを開放し、スポーツを練習するための歓迎された安全な場を提供することが重要です。
- 人を中心としたコーチング手法が確実に採用されるようにすることが重要です。



---

[ツール: 第1章 および 第2章](#)

[ツール: インクルーシブフットボールコーチのための実践アドバイス](#)

---

- プレーヤーに合わせたコミュニケーションスタイルを調整します。障害のあるプレーヤーを指導する指導者にとって、個々のニーズを理解することは不可欠です。コミュニケーションスタイルは人それぞれ異なる可能性があります。同じ障害の人でも、反応の仕方は一律ではありません。
- よりインクルーシブで歓迎されている環境づくりには、審判員も研修を受けて関与すべきです。
- 組織内の人材のスキルアップや研修には時間がかかる場合があります。アクセシビリティとインクルージョンを多くの会議の議題に組み込み、このテーマに特化したワークショップを開催し、指導者を招き障がい者支援の経験を持つ他者と交流させるなど、様々な取り組みを行ってください。



## 事例

**アイルランドフットボール協会(FAI)は、3時間の「障がい者フットボールに関する認識と指導法ワークショップ」を実施しています。**このワークショップは理論と実践の両要素を含み、参加者に様々な障害の種類と指導への影響について幅広い概要を提供することを目的として設計されています。

本コンテンツは以下の分野に関する情報を提供します。

- 知識:参加者は、障害を定義する方法と、主要な障害グループを区別する方法を学びます。
- 認識:参加者は、コミュニケーション、言葉、マナーの重要な役割、障がい者がフットボールに参加する方法、そして地域社会にどのような機会が存在するのかについて知識を深めます。
- 洞察:参加者は実践的な経験を通じて、様々な形式のゲームを体験します。

このワークショップは、フットボール・フォー・オールプログラムの開発を申請するクラブや、スポーツ指導およびアダプテッドレクリエーションを学ぶ人々に向けて定期的に実施されています。

これらは、よりインクルーシブなフットボール環境を提供する方法についての認識を高めることに貢献してきました。これにより、障がいのある人に多くの機会が生まれ、プレーヤーとしての可能性を発揮できるよう支援しています。指導者の資格認定は、障がいのあるフットボールプレーヤーにより質の高い指導が確実に提供される上で重要な役割を果たしています。

このワークショップはFAIのグラスルーツ指導者養成プログラムと連動しており、国内Dライセンス取得に必要な40時間のグラスルーツ指導者養成時間の取得の一部となります。



本コースはFAIスタッフが実施し、クラブの費用負担を最小限に抑えるため、費用は以下の通りに設定されています。

- 障がい者フットボールチームに関わる方ならどなたでも無料
- メインストリーム(一般)フットボールの指導者の場合は全員15ユーロ

このプログラムの成功の要因は、FAIが地域の障がい者団体と緊密な関係を築いていることにあり、これにより確実に内容が的確であり、最新のものとなっています。

FAI coaching opportunities.について、さらに知りたい方は[こちら](#)



## 第3段階:アクションする - パイロットプログラムとテスト (第7-12ヶ月)

**目的:**取り組みの効果を検証するためのパイロットプログラムを実施します。小規模から始めますが、とにかく今すぐ始めます!

### ステップ8 パイロットプログラムの開始

小規模なパイロット事業から始めてプログラムをテストしましょう。これによりフィードバックを収集し、調整を加え、早期の成功を実証することができます。コミュニティを巻き込み、熱意と関与を生み出し、プログラムが参加者のニーズを確実に満たせるようにしましょう。

- プログラムを開始するクラブやコミュニティを選びましょう。障がい者団体や障害のある生徒がいる学校には、既に興味を持つ参加者がいる基盤が整っているので、連携しましょう。
- 障害のある参加者向けに、一定期間(例:3~6か月、1学期など)の初期のトレーニングセッションと試合を企画・実施します。パイロットプログラム実施中は、参加者の感想や写真を収集し、出席者数を記録することを忘れないでください。これは報告目的やプログラムの展開を拡大するうえで重要です。
- 参加者、指導者、家族から定期的にフィードバックを収集します(例:初回セッション後、中間段階、プログラム終了時)。



小さなことから始めてはズミをつけましょう。最初は失敗しても、プログラムが不完全でも構いません。より良くするために、適応し、調整し、相談し、助言を求めましょう。

## ステップ9 評価と適応

パイロットプログラムの成果を評価し、改善すべき点を特定します。収集したデータ、参加者や保護者からの声、指導者陣の知見を活用し、パイロット段階で明らかになった障壁や不足点を解消しつつ、プログラムを強化するための効果的な変更を実施します。

指導技術、施設、およびリソースに必要な調整を行います。



## 第4段階:プログラムの拡大 (第13-18ヶ月)

目的:プログラムを拡大し、より多くの障害のある個人に届けること。

### ステップ10 スケールアップ

パイロットプログラムの結果と参加者からのフィードバックに基づき、プロジェクトをどの程度拡大するか決定します。例えば、

- クラブ／学校内でのセッション数および参加者数の増加
- この取り組みと同じことを他の場所／クラブで実施すること
- プログラムを延長してより長い期間実施すること

これは以下の手段によって達成可能:

- パイロット事業および今後のプログラムに関する認知を向上させます。プログラムを広報し、より多くの参加者の参加や提供クラブの増加を促すための適切なプロモーション計画を立てます。プログラムは、過去の参加者による口コミ、地域メディア、ソーシャルメディア、地域の障がい者団体ネットワークを通じて宣伝することができます。成功事例を共有し、プロモーション資料を作成し、プログラムの利点を強調することで認知度を高め、新たな参加者を惹きつけます。



ツール:[デジタルアクセシビリティ](#)障がい者がウェブサイトやデジタル文書を利用できるようにする方法を含みます。

- 地域の障がい者団体、学校、リハビリテーションセンター、または障がい者のコミュニティに積極的にコンタクトを取り、プログラムを促進し、そのアクセシビリティを強調します。
- 障がい者フットボールプログラムに関する関連情報が、ウェブサイトやソーシャルメディアアカウントで容易に確実にアクセスできるようにします。コンテンツが明確でアクセス可能な形式で提供されていることを確認します。
- 新規プレイヤーの参加を促すためのオープンイベントを開催します。
- フェスティバル、スポーツイベント、学校行事などの地域イベントに参加し、プログラムの認知を高め、目に見えるようにします。
- バディ制度やメンター制度を導入し、経験豊富なプレイヤーが新規プレイヤーを支援できるようにします。
- 参加者の支援に役立つようであれば、家族や兄弟姉妹(障害の有無に関わらず)がセッションに参加するよう促します。
- 地域メディア、公開講演、学校会議、および障がい者団体を通じて、障がい者フットボールへの認知向上を図ります。
- コミュニティを構築します。独自のトーナメントを主催するか、障がい者のためのフットボールチームや他の地域のクラブや団体に連絡を取り、定期的な試合や楽しいイベントを企画します。



## ステップ11 パートナーシップ、スポンサーシップを探る

- 障がい者団体、地元企業、スポーツ団体とのパートナーシップを構築します。スポンサーシップは、用具費、会場使用料、イベント開催費の負担軽減に役立ちます。強固なパートナーシップはプログラムの信頼性を高め、さらなるリソースをもたらします。
- パイロットプログラムの結果を活用し、取り組みの成功を裏付け、パートナーを説得したり追加資金の申請を行ったりします。
- 姉妹団体(他の類似した全国/地域組織)や、障がい者スポーツ(障がい者ラグビー、障がい者クリケット、アダプティブフラッグフットボール等)への参加促進という同じ取り組みを進める他競技団体とも連携します。例えば、好事例やリソース、用具、グラウンドの共有など、大きな機会が生まれる可能性があります。
- 学校や大学との連携を構築し、障がい者フットボールをプロモーションするとともに、若い障がい者がプレーヤー、指導者、またはボランティアとして参加するよう促します。
- 資金調達イベントの開催、長期スポンサーの確保、または財団との提携を通じて、自立した財務モデルを構築します。



## 事例

**ベルギーフットボール協会(RBFA)はベルギーパラリンピック委員会と提携し、ベルギー男子視覚障がい者サッカー代表チーム「ブラインド・デビルズ」の発展とプロ化を支援しています。同チームはコミュニケーション・マーケティング支援(ロゴ、SNS・ウェブサイトでの露出)に加え、代表チーム用エキップメントの提供を受けています。また、他のベルギー代表チームと共にナショナルテクニカルセンターでトレーニングを行うことも可能です。**

RBFAはまた、障がい者フットボールチームを含む社会的責任プロジェクトに対し、国営宝くじからの資金援助を受けています。これによりブラインド・デビルズはプロ化を進め、国際大会への参加が可能となっています。

RBFAは最近、ブラインドフットボールチームを含む新たなテクニカルセンターを建設しました。この新たな施設は収益創出に活用でき、例えば海外チームを招いてトレーニングキャンプ期間中に施設を貸し出すことが可能です。この収入は障がい者フットボールプログラムの拡充に充てられます。

RBFA障がい者フットボール代表チームについての詳細は [こちら](#)



## ステップ12 プレーヤーと指導者を育成する

プレーヤーと指導者双方の継続的な育成に投資します。高度なトレーニング機会、メンター制度、成長のパスウェイを提供し、プレーヤーがスキルを向上させ、指導者が指導技術を磨けるようにします。

- プレーヤー育成のパスウェイを継続的に評価し、改善します。
- 様々な能力の個々の参加を促します。
- 障害のあるプレーヤーに対し、プロのプレーヤーや指導者(例:貴団体のエリートプログラム指導者から)から指導を受ける機会を提供します。
- 指導者に対し、障がい者スポーツ専門指導資格や複雑なニーズを持つ人々と関わるための上級資格など、さらなる資格取得を奨励します。



## 第5段階:持続可能性と成長 (19-24ヶ月)

目的:組織内における障がい者フットボールの長期的な持続可能性と成長を確保すること。

### ステップ13 ガバナンス構造の確立

プログラム運営を監督する正式なガバナンス体制を構築します。これには定期的な委員会会議、明確な報告ライン、およびプログラムが国内外の障がい者スポーツ基準に沿うことを保証するポリシー等が含まれます。ガバナンス体制はプログラムの成長に伴い進化させることが可能です。明確なガバナンスと公認のステータスは、資金調達、パートナーシップ構築、助成金申請においてしばしば有利に働きます。



[障がい者ポリシーテンプレート](#)

#### 事例

ガバナンスにおける好事例の一つは、障害のあるアスリートの声が反映されるようにすることです。**アメリカサッカー連盟(USSF)は、包括的なガバナンスと意思決定プロセスの事例です。**

アメリカサッカー連盟(USSF) 11のシニア代表チームに対し運営・資金提供を行っていますが、そのうち5つは障がい者フットボールを対象としています。CP男子・女子代表チーム、電動車椅子サッカー代表チーム、デフ男子・女子代表チームです。

シニア代表チームの障がい者アスリートは、アスリート評議会のメンバーとすることができます。アスリート評議会は、協会内の様々な委員会やタスクフォースにアスリートを送り、協会の理事会メンバーを選出する投票権を持ちます。



理事会以外の委員会として、障がい者フットボール委員会があります。この委員会は、障がい者支援組織を代表する8名、独立した支援者2名、グラスルーツフットボール提供団体3団体で構成されています。

USSFについて詳細は [こちら](#)

## ステップ14 プロモーションし続ける

プログラムの全サイクルを通じて、プロモーションと認知向上が必要となります。プログラムの宣伝方法に関するヒントは「ステップ10 - 拡大」をご参照ください。プログラムが持続可能になった後は、プレイヤーの定着、ボランティアの募集、アクセス可能な施設の整備などに重点が移るため、行動を呼びかける内容も異なってくる可能性があります。

障がい者フットボールを、組織全体の年間コミュニケーション計画内に常にある項目として確実に組み込むようにしましょう。

障がい者コミュニティとの定期的な連絡を取り続け、積極的に働きかけ続けます。人々の移動や個人的な状況の変化により、過去に反応がなかったり関心がなかった人々が、今回はプロモーションキャンペーンにより前向きに受け入れる可能性があります。



## 事例

2024年、アルゼンチンフットボール協会(AFA)は障がい者のためのインクルーシブフットボールリーグ(Liga de Fútbol Inclusiva)の第27回大会を開催しました。1998年にアルゼンチンのモレノで始まったこのリーグは、国内および大陸全体に拡大しています。AFAと慈善団体シビル・アンダルが主催するこの取り組みでは、フットボールをプラットフォームとして活用し、ポジティブな価値観の醸成、機会の均等化、よりインクルーシブな社会の構築を推進しています。

毎年、大会は熱気あふれる開会式で開幕します。障がい者プレイヤーの参加を広く促すため、オンラインで参加招待が発表されます。

2024年には近隣地域から34団体に所属する900人以上の障害のあるプレイヤー達が参加しました。

プログラムの一貫性と持続可能性、そして明るく友好的な雰囲気成功の鍵です。小規模なスタートでしたが、今では見逃せない存在となりました。

AFAのインクルーシブフットボールリーグの詳細は [こちら](#)



## ステップ15 タレント発掘

注記: プログラムの一環として開発している障がい者フットボール種目が、上位レベルへの育成パスウェイを提供していない場合(非競技的なコミュニティおよびレクリエーションレベルでのみ可能)、このステップをスキップし、直接ステップ17に進んでください。



[ツール: 主要な障がい者フットボール組織一覧](#)

- より高いレベルで競技できる才能あるプレイヤーを発掘するパスウェイを構築します。指導者と連携し、才能あるプレイヤーを発掘するとともに、地域大会や全国大会への出場機会や追加トレーニングを提供します。種目毎のクラス分けの基準を把握すること(詳細は国際組織のウェブサイトを参照)。障害が競技方法に与える影響により、才能があっても競技のパスウェイを進めないプレイヤーも存在する可能性があります。
- ナショナルチームや国際大会に向けた有望プレイヤーを発掘するため、タレント発掘プログラムを実施します。
- 障害のあるプレイヤーのデータベースを構築し、タレントの発掘とリクルートを促進します。
- 複数のプログラム(例:パンディスアビリティと特定障害種別)を運営している場合:プレイヤーを観察し、別のプログラムの方が適しているかどうかを評価・助言します。
- プレイヤーをリスペクトし、認定されたクラス分け担当者の助けなしにプレイヤーをクラス分けしたり、医学的検査を行ったりしようとししないでください。



## ステップ16 国内および国際大会に向けてプレイヤーを準備させる

注記: プログラムの一環として開発している障がい者フットボール種目が、上位レベルへの育成パスウェイを提供していない場合(非競技的なコミュニティおよびレクリエーションレベルでのみ可能)、このステップをスキップし、直接ステップ17に進んでください。



---

[ツール:主要な障がい者フットボール組織一覧](#)

---

競技的な可能性を示すプレイヤー達が、国内および国際的な障がい者フットボール大会に向けて準備できるよう支援します。これには、専門的なトレーニングキャンプの開催や、より高いレベルでの競技参加プロセスを円滑に進めるための支援の提供が含まれます。

- 自身の専門分野における地域・国際イベントを調査し、確認します。
- 国際連盟と連携し、予選基準等を把握します。
- プレイヤーおよびスタッフを準備し支援し、国内および国際的な障がい者フットボールイベントへ参加できるようにします。障害のあるプレイヤーを伴うチームの遠征や大会参加には、障害のないプレイヤーの場合よりも多くの準備、時間、調整、資金が必要となることが多くあります。



## 事例

**オランダフットボール協会(KNVB)は、インスピレーションの源としてオレンジ色を採用しています。**

オランダでは、すべての子ども達が象徴的なオレンジ色のユニフォームを身にまとい、コディ・ガクポ、フレンキー・デ・ヨング、エスメー・ブルフツ、ヴィヴィアン・ミーデマといったプレイヤーの足跡をたどり、FIFAワールドカップ™やFIFA女子ワールドカップ™でプレーすることを夢見ています。主要な大会で自国を代表することは、大人にとっても子どもにとっても、名誉であり夢の実現です。

障害のあるフットボールプレイヤー達も、当然ながらその夢を共有することができます。オランダでは、障がい者フットボールの様々な形態が存在し、それらも代表チームがあり、総称して「オレンジ・パラフットボールチーム」として知られています。オレンジ色のユニフォームを着てプレーする機会を得られることは、何かを達成し、目標を追い求め、成長し、自らの能力を最大限に活かす機会があることを示しています。

障害のあるプレイヤーに舞台を提供し、他の代表チームのプレイヤーと同等の機会を与えることが重要です。KNVBは年6回、KNVBキャンパスで「オレンジ・パラフットボールデー」を開催しています。このキャンパスはオランダ代表チームの拠点であり、完璧なピッチとプロ仕様の施設を備えています。このトップレベルのスポーツ環境でのトレーニングは、目標に向かって努力するすべての人々に刺激とやる気を与えます。

以下のチームがオレンジ・パラフットボールデーに参加します。

- 男子アンプティフットボール代表チーム
- ブラインドフットボールタレントチーム(男女混合)
- 男子・女子CPフットボール代表チーム
- 男子U-23 CPフットボール代表チーム
- 男子U-18 CPフットボール代表チーム
- 男子U-15 CPフットボール代表チーム



- 男子・女子デフフットボール代表チーム(フットサルフォーマットでプレー)

KNVBは以下のように障がい者フットボール代表チームの発展にアクセシブルな方法で貢献しています。

- 代表チームのユニフォームを提供
- 他のすべての代表チームと同じ場所(自国の代表チーム専用施設)でトレーニングできるようにしています。
- 代表チームのユニフォームを着たプレーヤー達の写真を撮影し、彼等をプロモートしています。これにより、障害があっても自国を代表して競技し、高いレベルでプレーできることを他の人々に示し、さらに多くの障害のある子ども、若者、大人がフットボールを始めるきっかけとなるでしょう。
- ウェブサイトでの露出機会

KNVB障がい者フットボール代表チームの詳細は[こちら](#)



## ステップ17 評価、適応(再び!)、継続

ステップ9で導入した「評価と適応」モデルを基盤とし、本ステップではプログラムの継続的なモニタリングと改善に焦点を当てます。参加者、指導者、関係者から定期的にフィードバックを得て、プログラムの成果を評価します。懸念事項に対処し、体験を向上させるために必要な調整を行います。

各シーズン終了時には、指導者、プレーヤー、保護者、サポートスタッフを交えたフォーカスグループによる徹底的な振り返りを実施し、成功事例、課題、成長領域について議論します。このレビュー結果を基に、進捗状況、達成事項、開発領域をまとめた報告書を公表します。

このプロセスの一環として、行動計画を見直し、パフォーマンスデータを用いて進捗を追跡しながら、次のシーズンに向けてより意欲的な目標を設定してください。プログラムを発展させる上で重要な要素は、プレーヤーの定着です。プレーヤーの忠誠心を育むために、彼等に価値を感じさせ、追加トレーニングやリーダーシップの機会といったインセンティブを提供し、プログラム内に強いコミュニティ意識を醸成することで、エンゲージメントを優先させてください。



## 事例

ブラジルフットボール連盟(CBF)は今年初めて、マネジメント報告書において障がい者フットボール代表チーム(インクルーシブ代表)に関する情報を評価・共有しています。これは、ドワーフフットボール代表チーム、ダウン症候群フットボール代表チーム、ユニファイドフットボール代表チーム(フットサル形式で実施)の活動が、一般代表チーム(フットボール、フットサル、ビーチサッカー)の活動と並んで報告されていることを意味し、同協会が障がい者フットボール支援に強く取り組んでいる姿勢を示しています。

CBFが支援を提供した具体例には以下のようなものがあります。:

- ブラジルのブラサチーム(フットサル形式で行われるドワーフフットボール)は CBF本部で歓迎を受け、プレーヤーとコーチングスタッフはメディアデーを体験し、ブラジル代表チーム博物館を訪問し、CBF会長エドナルド・ロドリゲスとの昼食会に参加する機会を得て、その後、チームはワールドカップ参加のためアルゼンチンへ飛び立ちました。全費用は協会が負担しました。
- CBFはFIFAフォワード資金を活用し、ダウン症候群のプレーヤーによる代表チームがトルコで開催された2024トリソーム・ゲームズに参加するための全ロジスティクスおよび用具の費用を負担しました。同大会で彼らは3度目の世界チャンピオンに輝きました!
- CBFはまた、FIFAフォワード資金を活用し、昨年6月にリオデジャネイロでスペシャルオリンピックスブラジルがCONMEBOLと共同で開催した「ブラジルユニファイドフットボールカップ」の第1回大会を後援しました。

CBFユニファイドフットボールへのサポートの詳細は[こちら](#)



## まとめ

プログラムが順調に稼働し始めたら、第2段階以降のステップを見直し、新たな取り組みの開始を検討してください。例えば、別の競技種目の導入や、異なる参加者層に対応するための提供内容の拡充等が挙げられます。評価、適応、成長というこのサイクルにより、プログラムは常にダイナミックでインクルーシブであり、コミュニティのニーズに柔軟に確実に対応し続けることができるようになります。

この計画は、国内協会における障がい者フットボールの発展に向けた指針となります。各国の具体的なニーズや利用可能な資源に応じて適応させることが可能であり、タイムラインも必要に応じて調整し、成功裏に実施することが可能です。定期的な評価と適応は、プログラムの長期的な成功を確保するための鍵となります。



©JDFA

— ⊕ — ツール

---



このセクションには、皆さんが実際に行動を起こすためのサポートとして、本ツールキット全体で言及されている実用的なツールやテンプレートを掲載しています。これらはあくまで指針として作成されたものであり、それぞれの具体的な状況に合わせて調整する必要があります。

ワードのフォーマットに適用しやすいツールが以下にあります。



|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 用語集                         | 88 |
| FIFAアクセシビリティ用語ガイド           | 91 |
| 主要な国際連盟および組織一覧              | 94 |
| 障がい者がスポーツに参加する上での障壁         | 98 |
| 障がい者フットボールワークプランテンプレート      | 98 |
| 障がい者フットボールポリシーテンプレート        | 98 |
| インクルーシブフットボールコーチのための実践アドバイス | 99 |

お住まいの地域で障がい者サッカーを発展させるのに役立つ追加ツールをご提案いただく場合は、[humanrights@fifa.org](mailto:humanrights@fifa.org)までご連絡ください。



## 用語集

**能力別グループ分け／能力別編成:** ゲームの公平性を目的として、プレイヤーの能力や実績を公式または非公式の方法で測定し、分類するやり方。

**アクセシビリティ:** あらゆる能力の人が、製品、サービス、環境、施設を利用できること。この定義は、国連障害者権利条約における普遍的アクセシビリティの基本原則に関連しており、環境、プロセス、物品、製品、サービス、物、器具、道具、装置が、すべての人々にとって理解可能、利用可能、実現可能であり、安全かつ快適な条件下で、可能な限り自立的かつ自然な形で利用できるように求められる要件を規定しています。

**アダプティブフットボール／障がい者フットボール／あらゆる能力を対象としたフットボール:** これらの用語はしばしば同義語として用いられ、障がい者のニーズに最適化するためにメインストリーム(一般)のフットボールを改変した形態を指します。本ツールキットでは、これらを包括的に指す総称として「障がい者フットボール」を採用します。

**クラス分け:** パラスポーツまたは障がい者スポーツへの参加資格を定義し、特定のスポーツにおける基本動作の実行能力への障害の影響度に応じてプレイヤーを競技クラスに分類するプロセス。競技レベルの障がい者スポーツにおいて、公平かつ公正な競技の枠組みを提供する分類は不可欠です。障害はスポーツによって競技能力への影響度が異なるため、クラス分けは競技毎に異なります。能力別グループ分けよりも正式な手続きであり、各競技毎に研修を受けた専門家が厳格かつ詳細な規則に従って実施します。

**障害:** 国連障害者権利条約によれば、障害とは、障害のある人が、他の人々と平等な立場で社会に完全かつ効果的に参加することを妨げる、態度上の障壁や環境上の障壁との相互作用によって生じるものです。

**障がい者フットボール:** 障害のある人や移動に制限のある人が参加できる、あらゆるフットボールの機会や形式を指す包括的な用語。特定の用具の使用やルールの変更の有無に関わらず適用されます。

**障害種別フットボール:** 同種の障害がある人が共にプレーするためのフットボールの一形態であり、ルールが変更され、用具が適応されています。障がい者フットボールにはいくつかの主要な競技種目があります。

**インクルージョン:** 障害とアクセシビリティの文脈において、これは障害のある人が社会のあらゆるレベルで積極的かつ有意義に関与することを指します。

**MA(s):** FIFA加盟協会、各国協会

**メインストリーム(一般)フットボール:** FIFAのルールによる、最も一般的に広く知られているフットボールの形態。  
一般のフットボール

**修正フットボール:** このフットボールの形態はルールを改変して、障害のある人とない人が共にプレーすることを可能にしたものです。修正フットボールはユニファイドフットボールまたは統合フットボールとも呼ばれます。

**パンディスアビリティ(障害種別横断フットボール):** 様々な障害や健康状態を持つプレーヤー達が一緒にプレーするフットボールの一形態。



**パラフットボール:** 「パラ」という用語は国際パラリンピック委員会の商標です。「パラ」という用語は、IPCアスリート分類コードに準拠し、かつIPCの明示的な許可を得たスポーツのみが使用できます。現在パラリンピックレベルで行われている唯一のパラフットボールは、ブラインドフットボール(別名5人制フットボール)です。パラアスリートとは、パラリンピック競技プログラムに参加する障がいのあるプレーヤーのうち、まだ初めてのパラリンピック大会に出場したことのない者を指します。パラリンピアンとは、自国を代表してパラリンピック大会に出場したパラアスリートを指します。明確化のため補足すると、「パラ」は「パラレル(並行)」の略称であり、すなわちメインストリーム(一般)競技と並行して実施される競技を意味します。

**当事者(実体験を持つ人):** 障害とアクセシビリティの文脈において、他者によって構築された表現ではなく、障害と共に生きる直接的な実体験を通じて得た世界に関する個人的な知識を持つ個人やコミュニティを指します。

**ツイントラック(二本立ての)アプローチ:** これは、公共交通機関などのメインストリームのサービスや支援がインクルーシブで、障がい者も利用可能であることを確保すると同時に、障がい者向けの特定のサービスや支援も提供することを意味します。このアプローチは、特定の選択肢とメインストリームの選択肢のどちらかを選ばなければならないというものではなく、適切な時期と場所で、最も適切な高品質の支援やサービスに正しくアクセスできるようにすることを目指しています。メインストリームのサービスや支援が障がい者を包含するためには、合理的配慮の提供とユニバーサルデザインの導入が必要です。



## FIFA アクセシビリティ 用語ガイド

言語は普遍的なものではなく、それは障がい者コミュニティにおいても同様です。一部の当事者は障害を自らのアイデンティティの重要な要素と見なし、アイデンティティ優先表現(例:障がい者)の使用を好みます。一方、人中心表現(例:障害のある人)を好む当事者もいます。

指導者がプレイヤーにどちらの用語を好むか尋ねることは適切です。好みは異なるかもしれませんが、健常者優位を暗示する(典型的な能力が優れていると示唆する)ような表現は避けるべきだという点では、広く合意が得られています。

したがって、記事を書く際やソーシャルメディアで認知を高める際には、プレイヤーの功績に焦点を当て、ストーリーやトピック、文脈に不可欠な場合にのみ障害に関連する内容を盛り込むことが重要です。関連性がある場合でも、障害に関連する内容は主たる焦点ではなく、一つの特性として扱うべきです。「身体的に困難を抱える」「特別な」「ハンディキャップの」といった見下した表現は、コミュニティ間の差異を助長するため不適切です。プレイヤーが成功を収めた際、「障害を克服した」といった表現や「感動的な物語」といったインスピレーションを強調する言葉は避けるべきです。こうした表現は障がい者コミュニティに対する見下した態度と受け取られ、競技上の成果を覆い隠す恐れがあります。

言語は進化する社会の嗜好に基づいて変化していく点に留意することが重要です。



以下の表は避けるべき表現と推奨される表現を示しています。※日本語に訳して趣旨を正確に伝えることが難しい、また日本語で使わない表現が多いので、原文の英語表記のみとします。

| 推奨される表現   | 避けるべき表現   |
|---|---|
| Non-disabled person   | Able-bodied person  |
| Disabled person and person with limited mobility/Person with a disability           | Handicapped, the disabled   |
| Has a disability  | Afflicted with, suffering from, Cripple, defective, victim of...                  |
| Congenital disability   | Birth defect  |
| Wheelchair user/player who uses a wheelchair or mobility device                     | Confined to a wheelchair or wheelchair bound                                      |
| Brain injury  | Brain damage  |
| Person with Down syndrome   | Down's (they have Down's)   |
| Non-verbal, Deaf-blind person   | Dumb, mute  |
| Deaf, or hard-of-hearing person   | Hearing-impaired person   |
| Intellectually disabled person, Learning-disabled person                            | Person with a learning difficulty or a disabled, retarded, slow or special person |
| Person with mental health issue(s)  | Mentally ill, insane person   |
| Person with dwarfism, person of short stature, little person                        | Midget, dwarf   |
| Person with cerebral palsy, person who has cerebral palsy                           | Spastic   |
| Blind person, partially sighted person, person with low vision or visual impairment | The blind/partially sighted   |

このリストは網羅的なものではなく、また全ての国や地域で許容される表現を代表しているわけでもありませんが、指針として活用してください。特定の国で不快と受け取られる表現や用語が、別の国では許容される場合があることに留意すべきです。各国の障がい者フットボールプログラムに適した表現を開発する際に、障害のある人達に関して、協会を支援することは極めて重要です。



## 主要な国際連盟、国際組織一覧

注記: これは網羅的なリストではありません。組織はアルファベット順に記載しています。

### **国際ろう者フットボール連盟 Deaf International Football Association (DIFA)**

世界的に聴覚障がい者フットボールの大会を推進・監督する組織。DIFAは2010年に設立され、以来世界中でデフフットボールの普及と発展に取り組んでいます。DIFAはデフフットボールの大会やイベントに対して厳格な規定と基準を設けています。DIFAは国際デフスポーツ委員会(ICSD)の加盟団体です。

### **国際電動車椅子フットボール連盟 Fédération**

#### **Internationale de Powerchair Football Association (FIPFA)**

電動車椅子フットボールを統括する国際組織。FIPFAは2006年に設立され、以来世界中で電動車椅子フットボールの普及と発展に取り組んでいます。FIPFAは国際パラリンピック委員会の加盟団体であり、電動車椅子フットボールの大会やイベントに対して厳格な規定と基準を設けています。

### **国際ウォーキングフットボール連盟 Federation of**

#### **International Walking Football Associations (FIWFA)**

FIWFAはウォーキングフットボールの国際統括団体であり、2018年に設立されました。

### **ダウン症候群プレーヤーのための国際フットボール連盟**

#### **Football International Federation for Players with Down syndrome (FIFDS)**

ダウン症候群プレーヤーのためのフットサルを統括する組織。FIFDSは2017年4月にポルトガルで初の世界選手権を開催しました。FIFDSは [Sports Union for athletes with Down Syndrome](#) (SU-DS)の加盟団体です。

### **国際視覚障がい者スポーツ連盟 International Blind Sports Federation (IBSA)**

視覚障がい者のスポーツを推進し、世界的にブラインドフットボール大会を運営する組織。IBSAは国際パラリンピック委員会の加盟団体であり、他の組織と緊密に連携しながらブラインドフットボールをはじめとする視覚障がい者スポーツの普及・発展に取り組んでいます。

IBSAワールドゲームズは、新人・ベテラン選手を問わず、パラリンピック競技と非パラリンピック競技の両方で、同世代の強豪選手達と競い合う機会を提供しています。IBSAワールドゲームズにおけるブラインドフットボール競技は、通常、パラリンピック大会の予選を兼ねています。

### **国際ドワーフスポーツ連盟 International Dwarf Sports Federation (IDSF)**

この組織は、1993年にシカゴで開催された第1回世界ドワーフ競技大会の大成功を受けて設立されました。世界ドワーフ競技大会は4年毎に開催されています。

### **国際CPフットボール連盟 International Federation for Cerebral Palsy Football (IFCPF)**

CPフットボールおよびフレームフットボールの国際統括団体。2015年1月に正式に発足し、[CP国際スポーツ・レクリエーション協会](#)(CPISRA)傘下で37年間活動した後、独立した競技となりました。

### **国際精神障がい者フットボール委員会 International Football Committee on Mental Health (IFCMH)**

2013年に設立された団体で、精神疾患のある患者を対象としたドリームワールドカップおよびフットサル世界選手権を推進しています。



### **国際パラリンピック委員会 International Paralympic Committee (IPC)**

パラリンピックムーブメントの国際統括団体。IPCはパラリンピック競技大会(夏季・冬季が4年毎に開催)の実施を監督し、加盟団体を支援してパラアスリートがスポーツの卓越性を達成できるよう取り組んでいます。現在パラリンピック競技大会で行われている障がい者フットボールは、ブラインドフットボールです。

### **知的障害のあるアスリートのための国際スポーツ連盟 International Sports Federation for athletes with intellectual impairment (Virtus)**

Virtus は知的障害のあるアスリートのための国際連盟です。1986年に設立されたVirtus(旧称INAS)は、国際パラリンピック委員会(IPC)により、知的障害のあるアスリートの競技資格、エリート競技、スポーツ発展を統括する国際障がい者スポーツ機構(IOSD)として認定されています。Virtusは知的障害のある人のためのフットボールとフットサルの両方を推進しています。

### **パラフットボール Para Football**

障がい者フットボールの基盤かつ世界的な組織。オランダで財団および非営利団体として登録されたパラフットボールは2020年に設立され、国際パラリンピック委員会(IPC)傘下の国際連盟間の協力の歴史を基盤とし、現在ではあらゆる形態の障がい者フットボールを包括するまでに拡大しました。パラフットボールは障がい者フットボールの独立した国際連盟を統合し、協力の促進、資源の共有、業務分野の集中化を支援しています。



### **スペシャルオリンピックス Special Olympics**

知的障害のある子どもと大人向けのスポーツとプログラムを提供する国際組織。1968年に設立され、各種イベントや国際大会、ワールドゲームズ、地域・国内大会を開催しています。

### **ワールド・アビリティスポーツ World Abilitysport**

ワールド・アビリティスポーツは、国際電動車椅子・アンプティスポーツ連盟(IWASF)とCPISRAの合併を経て2022年に設立されました。ワールド・アビリティスポーツは、IOSDとして国際パラリンピック委員会の加盟団体です。ワールド・アビリティスポーツ大会では、現地組織委員会が選定した複数の障がい者スポーツ競技が行われます。CPフットボールが競技種目に含まれる場合があります。

### **世界アンプティフットボール連盟 World Amputee Football Federation (WAFF)**

世界的にアンプティ(切断者)フットボールイベントを推進・監督する組織。WAFFは2002年に設立され、以来世界中でアンプティフットボールの普及と発展に取り組んでいます。



## 障がい者がスポーツに参加するにあたっての障壁

これらの障壁を念頭に置きながら、段階的なガイダンスに従うことが重要です。本ツールはガイドであり、組織の特定のニーズや状況に合わせてカスタマイズする必要があること、また現地の状況に応じて適応させる必要があることにご留意ください。



[Download](#)

## 障がい者フットボール・ワークプラン・テンプレート

表をご自身の計画とスケジュールに合わせて調整してください。詳細は障がい者フットボールツールキットの第3章に記載されている方法論を参照してください。



[Download](#)

## 障がい者フットボール・ポリシーテンプレート

このテンプレートは、障がい者フットボール団体の特定のニーズに合わせてカスタマイズ可能です。イベント、トレーニングプログラム、スポンサーシップ機会の開発・管理プロセスを簡素化するために設計されています。これらのテンプレートを活用することで、団体は時間とリソースを節約し、障害のあるアスリートへの質の高いプログラムとサービスの提供に注力することができます。ポリシーを整備しておくことで、団体の理事会や経営陣からの承認を得やすくなります。

本ポリシーテンプレートは、皆さんの協会の特定のニーズや状況に合わせてカスタマイズする必要があることにご留意ください。また、障がい者の権利に関する適用法令への準拠を確保するため、法的審査が必要となる場合があります。



[Download](#)



## インクルーシブ フットボールコ ーチのための 実践アドバイス

これらのアドバイスはあくまでも指針として提供されるものであり、指導者が独自の適応策を考案することを促すために設計されています。コミュニケーションスタイルは個人によって異なる可能性があります。同じ種類の障害のある人でも、全員が同じように反応するとは限りません。

### 全般的アドバイス

- プレーヤーを理解し、信頼関係を築くこと。障害は一人ひとり異なり、ほとんどが目に見えないものです。そのため、常にプレーヤーと動きの制限や日常的な服薬について話し合い、それがトレーニングにどう影響するかを共有するよう促しましょう。
- 参加者が参加登録する前に、参加者または保護者との電話または対面での面談をし、障害とアクセシビリティ要件を確実に理解できるようにしましょう。
- プレーヤーの着替えや、競技用具・車椅子などへの乗り換えに十分な時間を確保できるよう、セッションのスケジュールを調整しましょう。
- 体調や障害により疲労がより生じやすいため、セッションは短く設定する必要がある場合があります。
- プレーヤーが必要な支援を確実に受けられるようにし、必要に応じて介助者や同伴者が支援できるようにします。指導者とプレーヤーの比率を調整する必要がある場合もあります（適切な場合には保護者や介助者にピッチ上での協力を依頼します）。
- 常にセーフガーディングポリシーに厳格に従います。
- グループ全員の前で、プレーヤーの障害に関する詳細を明かしたり共有したりしないでください。全員にリスペクトをもって接してください。
- プレーヤーとのコミュニケーションや適応において効果的な方法が確立できている場合は、その知見を他の指導者と共有してください。



## 移動

- 移動補助具は、その人の自立と自由を象徴するものです。それはその人自身の一部なのです。
- 脊髄損傷のあるプレーヤーは交感神経系の機能が損なわれているため、心拍数、血圧、発汗の調節が困難となり、体温調節に影響を及ぼします。特に高温環境下では、この点を留意することが重要です。
- CPや脳損傷のあるプレーヤーは、脱水症状、筋肉のけいれん、疲労をより頻繁に起こす可能性があります。これは、長時間の運動が筋緊張を高め、特定の動作パターンがより多くのエネルギー消費を必要とするためと考えられます。
- 水分補給と日陰への退避が重要です。指導者がプレーヤーの体力レベルを把握したら、運動と休息の比率を調整する必要がある場合があります。
- プレーヤーの移動補助具(車椅子、クラッチ、義肢)の状態と適切であるかを確認します。
- 感覚の欠如(特に筋力低下を伴う場合)により、プレーヤーは切り傷、ただれ、やけどなどの損傷があっても自覚できないことが多くあります。サーフェスの高温・低温を含む環境の安全性を確保してください。
- 特定のサーフェスは、他よりも移動の面で課題がより大きくなる可能性があります。例えば、人工芝や天然芝は、フットサルスタイルのコートと比較してその傾向があります。
- エリアをできるだけ障害物のない状態に保つようにします。例えば、従来の形状ではなく平らなコーンを使用します。



## 視覚

- プレーヤーの視力の状態を確認します - 敬意を持って、個人がどの程度見えるか尋ねることを恐れしないでください。これにより、適切なコミュニケーションを取れるようになります。
- 本人に、環境内を示したり誘導したりする必要があるかどうか尋ねてください。
- 相手に近づく際は、例えば自分の名前を言うなどして口頭で身分を明かし、去る際も必ずその旨を伝えてください。参加者が、誰が同席しているかと、それぞれの役割を理解していることが重要です。
- ニーズに適応した用具(明るい色のものや鈴の入ったボール等)を使用します。
- 他の活動の音や音楽による妨げが少なく、他のグループから離れた静かな環境でセッションを主導します。
- 視覚的なデモンストレーションではなく、説明的なコーチング(言葉と触覚/感覚)を用いましょう。
- 人を押したり引っ張って動かしたりしないでください。
- コーラーやガイドがコーチングをアシストし、指導者とプレーヤーの比率を低く保つのに役立ちます。



### 認知

- 指導者は、トレーニングセッションや試合日の前にメールを送ることを検討するとよいでしょう。事前に何を扱うのか、何を期待されるのかを知っておくことが有益だと感じるプレーヤーもいるからです。また、平易な言葉で書かれた指示を受け取ることで理解が深まるプレーヤーもいます。
- 指導者は、例えばより簡単な言葉を使い、比喩や専門的なフットボール用語を避けるなど、指導スタイルを適応させる必要があるかもしれません。簡潔で明確な指示を与えましょう。否定形は避けてください。
- 可能であれば、写真やその他の視覚的な補助を使用してください。
- 言葉は慎重に選びましょう。特にフィードバックを伝える際には注意が必要です。フィードバックは、グループの前ではなく、1対1で伝える方が効果的に受け止められる場合があります。



### 感覚

- 指導者がペアやグループを割り当てる方が、プレーヤー自身に選択させるよりも簡単かもしれません。プレーヤー自身に選択させると、社会的に居心地の悪い状況が生じ、プレーヤー達がどのように対処したらよいかわからない可能性があるためです。
- プレーヤーは自ら孤立したり、引きこもりがちになるかもしれませんが、これは問題ありません。プレッシャーをかけないでください。準備が整い次第、自らグループに戻ってきます。
- 辛抱強く待ちましょう。相手に時間を与え、居心地の良い環境を作ろうと努めてください。



### 言語と発話

- プレーヤーにとって最適なコミュニケーション方法を確認しましょう。
- 可能であれば、写真やその他の視覚的な補助を使用しましょう。
- 感情やシンボルを表すカードやポスターがあると役立つかもしれません。



### 聴覚

- 会話の前に相手の注意を引きましょう(軽く触れる、腕や旗を振るなどの視覚的な合図を用いるなど)。
- プレーヤーが希望するコミュニケーション方法(例:口話、手話、通訳者との連携)を確認します。通訳者や手話通訳者を利用する場合には、通訳者や手話通訳者にではなく、本人に直接話しかけましょう。
- 聴覚障害はプレーヤーのバランスに影響を与える可能性があることに留意してください。
- ホワイトボードで図解や図面を使って説明すると効果的です。
- 審判員に対して、試合中、簡単な身振りや合図を用いてコミュニケーションを取るよう提案します。
- その人が手話を使用している場合、指導者やチームメイトがプレーヤーとコミュニケーションを取るために、いくつかの基本的な手話を学ぶことが役立つかもしれません。
- 静かで明るい環境だとコミュニケーションがとりやすくなります。



©JDWFA

日本語版翻訳・監修 公益財団法人日本サッカー協会(JFA)

<https://www.jfa.jp/>

発行 2026年6月

協力 一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟(JIFF)

加盟団体

特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会

一般社団法人 日本CPサッカー協会

特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会

特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟

一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会

特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー®協会

一般社団法人 日本ろう者サッカー協会

準加盟団体

特定非営利活動法人 日本ドワーフサッカー協会

※ 日本の障がい者サッカーの詳細についてはJIFFの公式WEBサイトをご参照ください。

<https://www.jiff.football/>

